

# 胆江地区歯科保健データ集

— 令和元年度 —

一般社団法人

奥州歯科医師会

# 目 次

1 .	歯科保健目標との比較	- 1 -
2 .	1.6歳児、3歳児検診	
	① 1.6歳児 歯科検診結果	- 2 -
	② 3歳児 歯科検診結果	- 3 -
3 .	小学校 検診結果	
	① 水沢 小学校 検診結果	- 4 -
	② 江刺 小学校 検診結果	- 5 -
	③ 金ヶ崎町 小学校 検診結果	- 6 -
	④ 胆沢 小学校 検診結果	- 7 -
	⑤ 前沢 小学校 検診結果	- 8 -
	⑥ 衣川 小学校 検診結果	- 9 -
	⑦ 小学校別 未処置歯所有者率	- 10 -
	⑧ 小学校別 う歯有病者率	- 11 -
	⑨ 小学校別 DMFT	- 12 -
4 .	中学校 検診結果	
	① 中学校別 未処置歯所有者率	- 13 -
	② 中学校別 う歯有病者率	
	③ 中学校別 DMFT	
5 .	自治別 検診結果	
	① 自治別 小学校 検診結果	- 14 -
	② 自治別 中学校 検診結果	- 15 -
6 .	1.6歳児～中学3年までの年代別推移	
	① う蝕有病者率	
	・ 水沢、江刺、金ヶ崎町	- 16 -
	・ 胆沢、前沢、衣川	- 17 -
	② むし歯本数	
	・ 水沢、江刺、金ヶ崎町	- 18 -
	・ 胆沢、前沢、衣川	- 19 -

# 歯科保健目標との比較

## ■ イー歯トープ 8020 プラン(2014-2022)

### 目標項目

- ・3歳児でむし歯がある者の割合の減少 現状値(H24) 26.5% 目標値(H34) 14%  
令和元年度 胆江地区: 1.6歳児 0.7%、3歳児 13.1%  
29年度 岩手県 : 1.6歳児 1.5%、3歳児 18.7%
- ・12歳児で永久歯のむし歯がある者の割合の減少 現状値(H24) 38.77% 目標値(H34) 28%  
令和元年 胆江地区:34.69%、岩手県35.4%、(全国:31.76%)  
12歳児における1人平均むし歯の本数  
令和元年 胆江地区:0.65歯、岩手県0.8歯、(全国:0.69歯)

## ■ 健康日本 21

3歳児におけるう歯のない者の割合の増加

目標値:3歳児におけるう歯のない者の割合 80%以上

基準値:う歯のない者の割合 3歳児59.5%(平成10年3歳児歯科検診)

12歳児における1人平均う歯数(DMF 歯数)の減少

目標値:12歳児における1人平均う歯数(DMF 歯数) 1歯以下

基準値:1人平均う歯数 12歳児2.9歯(平成11年学校保健統計調査)

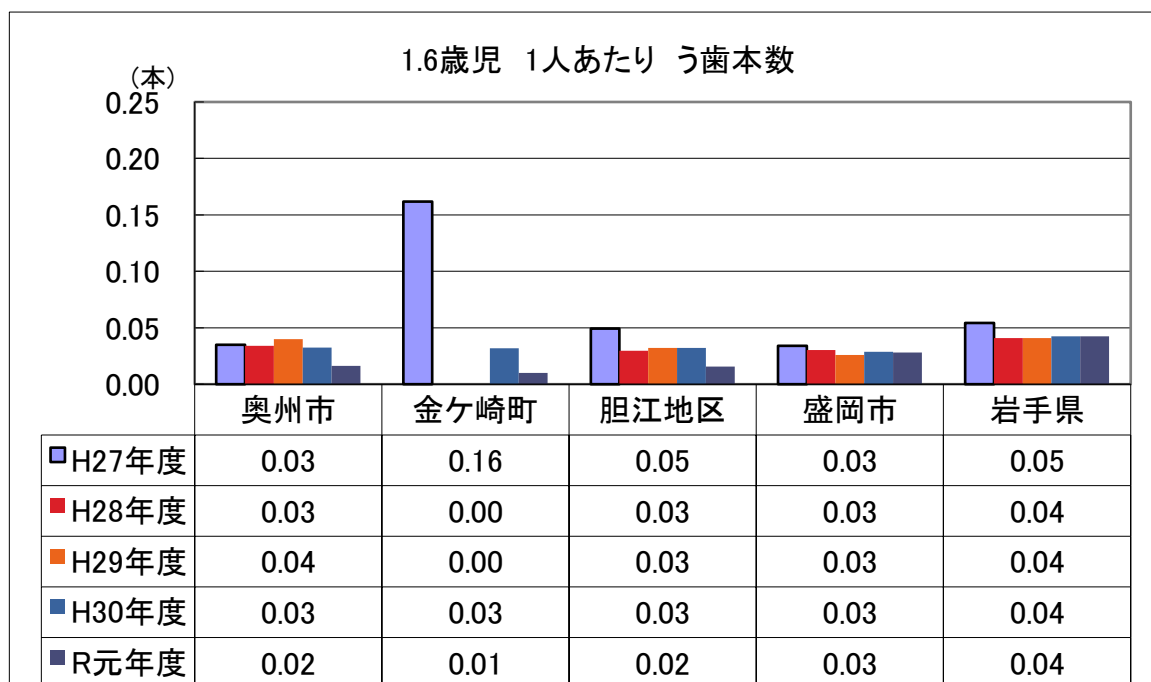
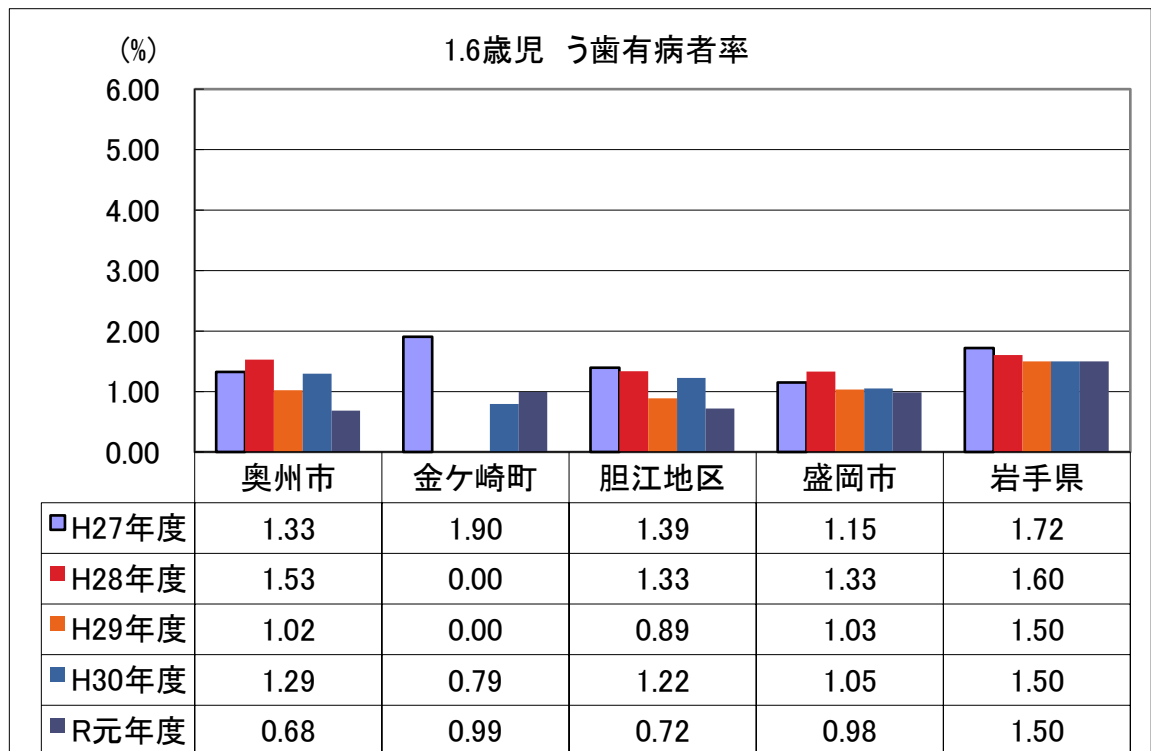
## ■ WHO 西暦 2025 年の目標

- ① 5歳児の90%以上がう蝕にならないこと
- ② 20歳の時点で90%の人がう蝕のコントロールされた状態、すなわち完全に治療がされた状態となること
- ③ 90%以上の人に破壊性のう蝕がないこと
- ④ 75%の人が歯科疾患の原因を知り、歯科疾患の予防とセルフケアが可能となり、自己点検ができる状態となること
- ⑤ 世界的なデータベースが作られ、個人、地域、国レベルでの歯科保健状態の評価がされ、医療経済の状態を評価するシステムが構築される

## 1.6歳児 歯科検診結果 (令和元年度)

\*岩手県は29年度データとなります

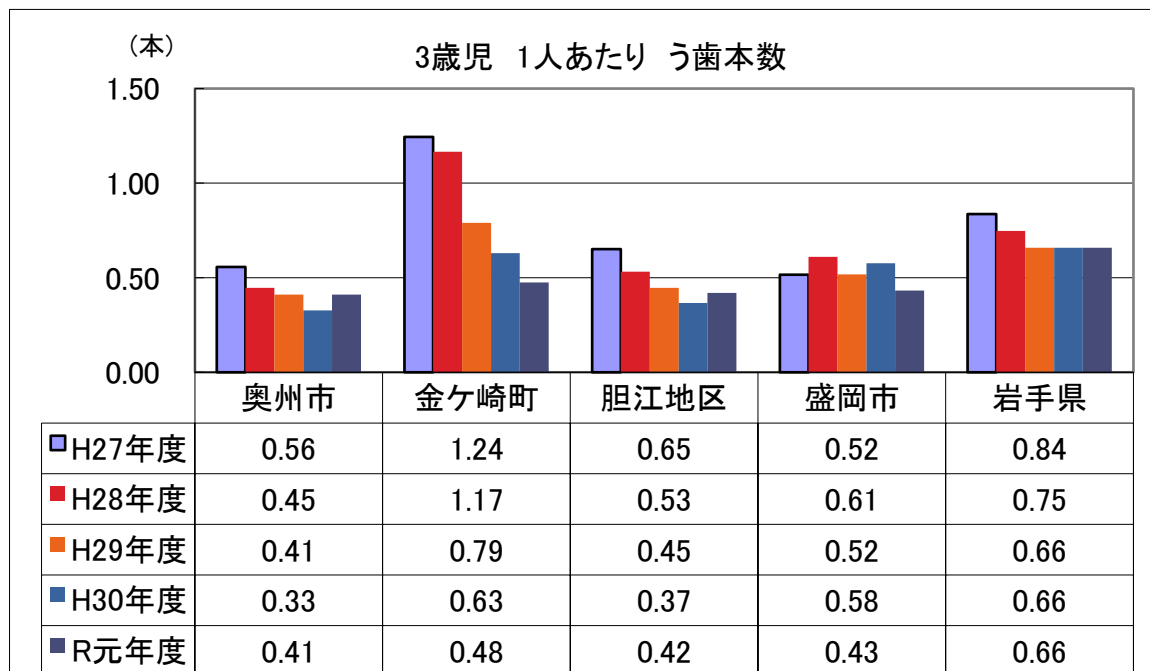
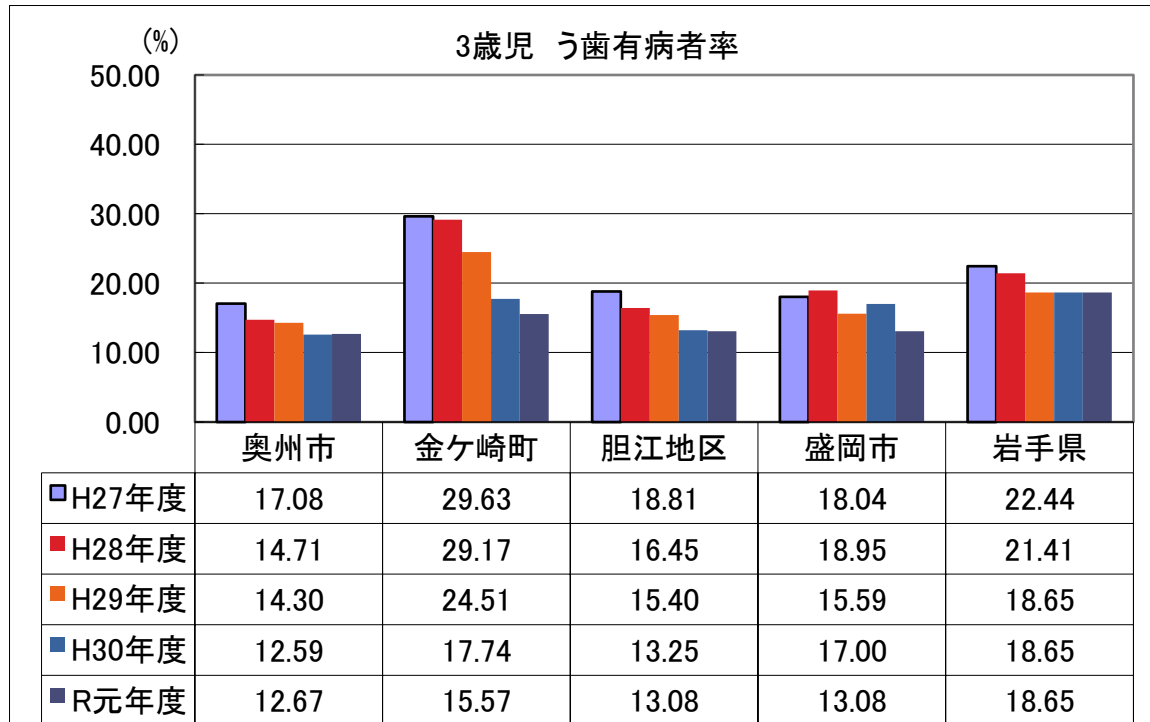
R元年度	健診受診者	むし歯のある者	う歯有病者率	むし歯総数	1人あたり本数
奥州市	733	5	0.68	12	0.02
金ヶ崎町	101	1	0.99	1	0.01
胆江地区	834	6	0.72	13	0.02
盛岡市	1,932	19	0.98	54	0.03
岩手県	8,404	126	1.50	357	0.04



## 3歳児 歯科検診結果 (令和元年度)

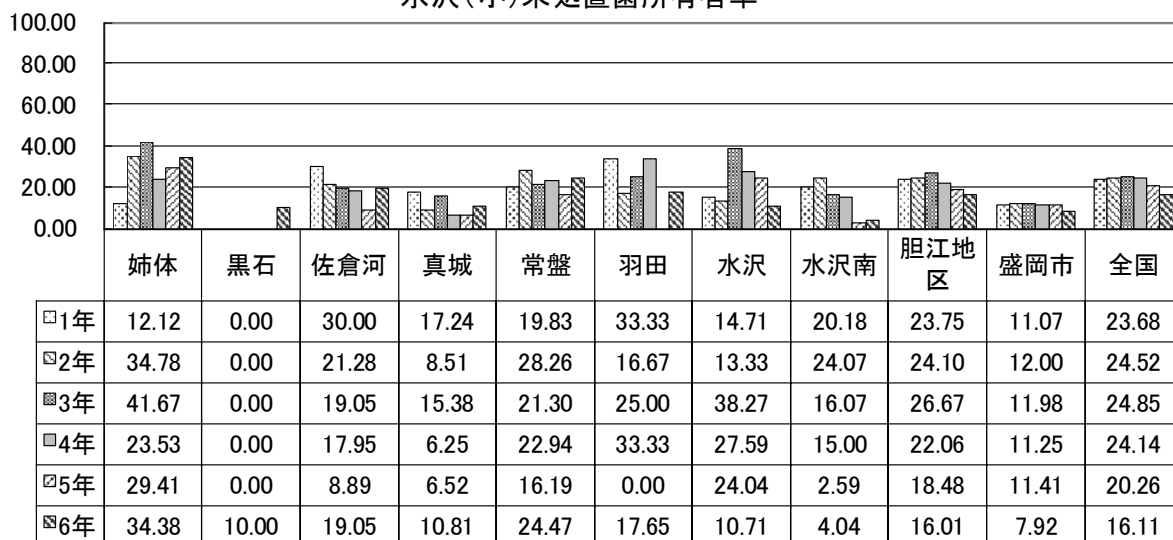
\* 岩手県は29年度データとなります

R元年度	健診受診者	むし菌のある者	う歯有病者率	むし菌総数	1人あたり本数
奥州市	734	93	12.67	301	0.41
金ヶ崎町	122	19	15.57	58	0.48
胆江地区	856	112	13.08	359	0.42
盛岡市	2,049	268	13.08	884	0.43
岩手県	8,793	1,640	18.65	5,787	0.66

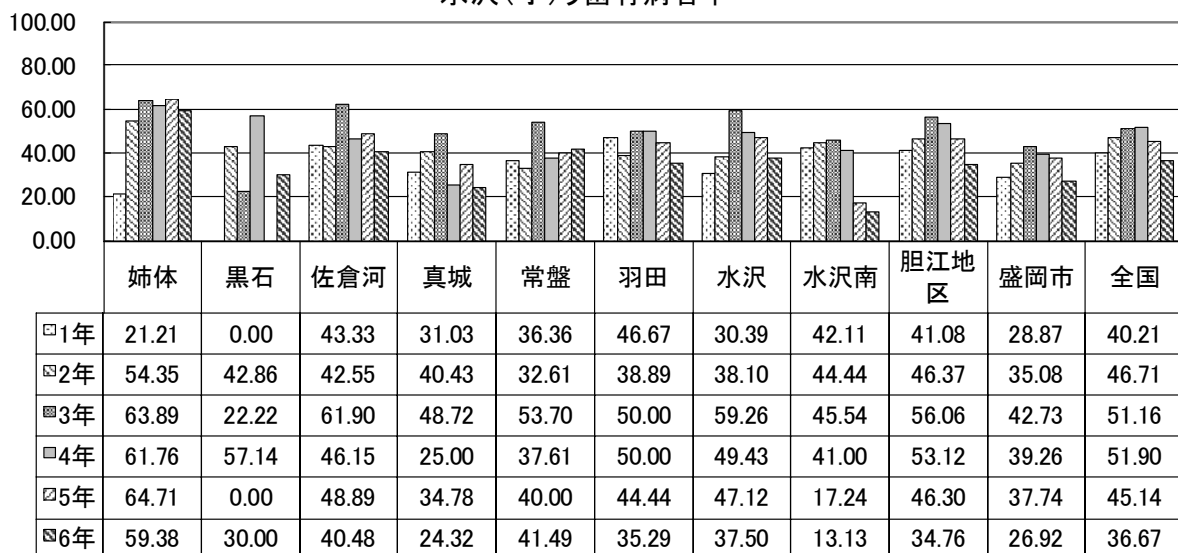


学校別(小)

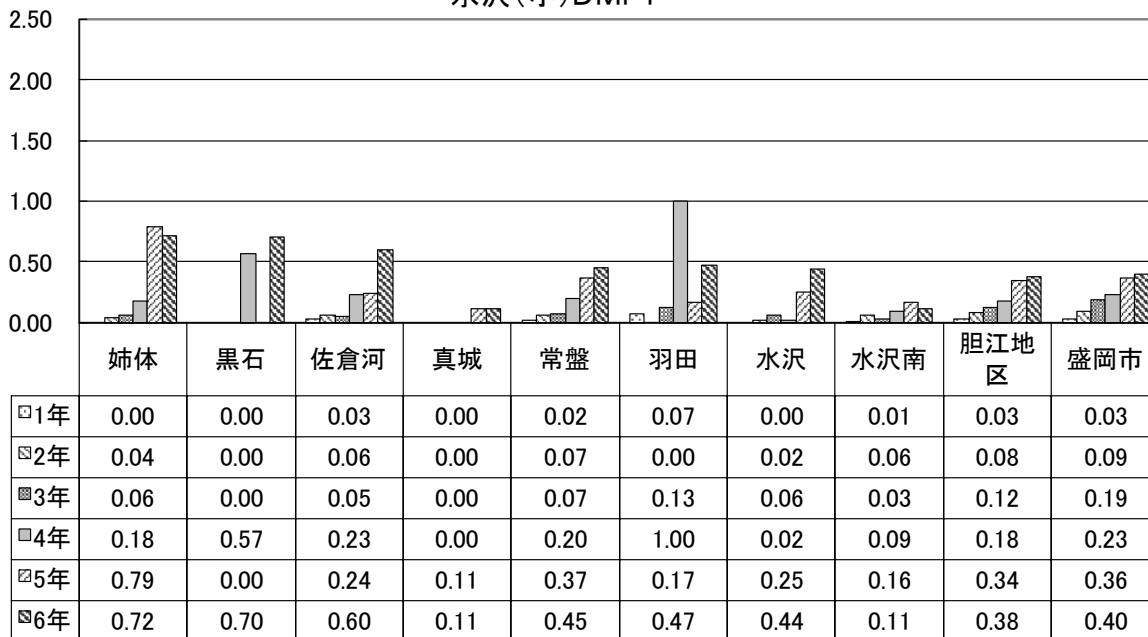
水沢(小)未処置歯所有者率



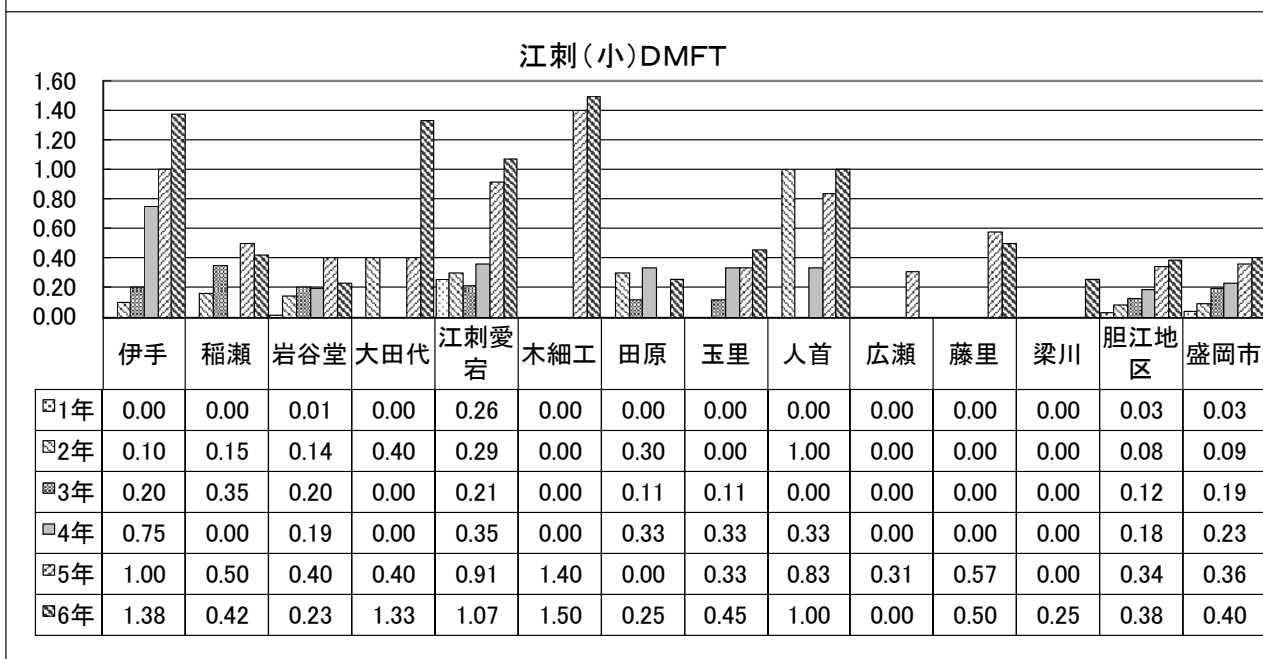
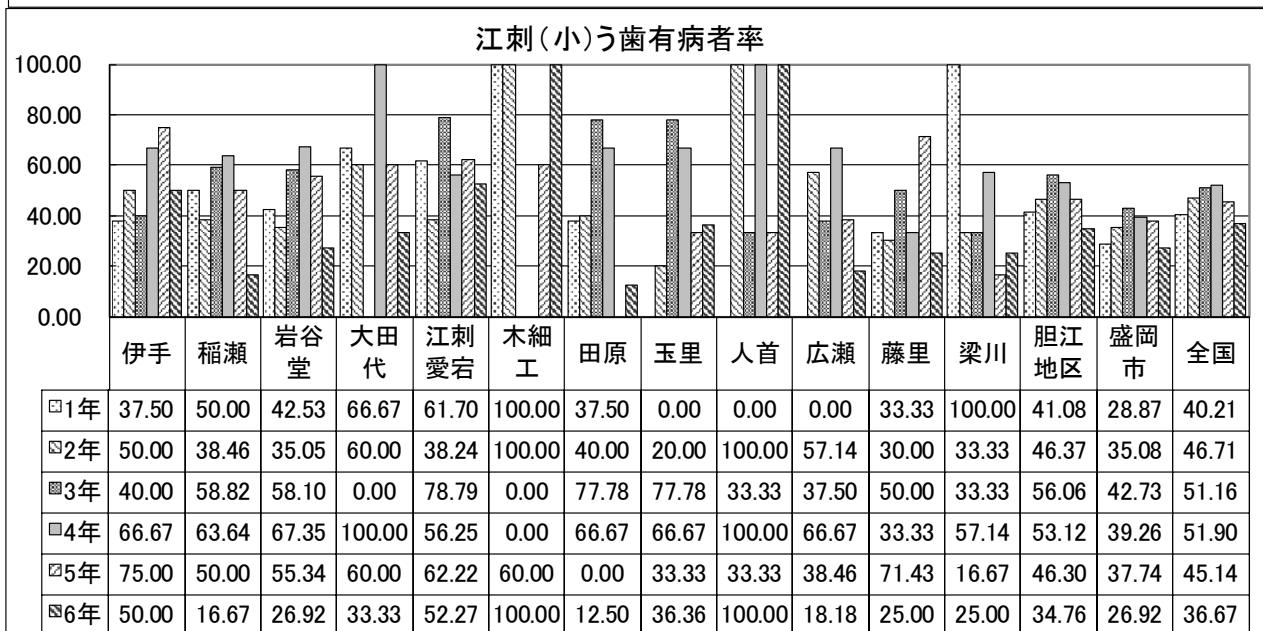
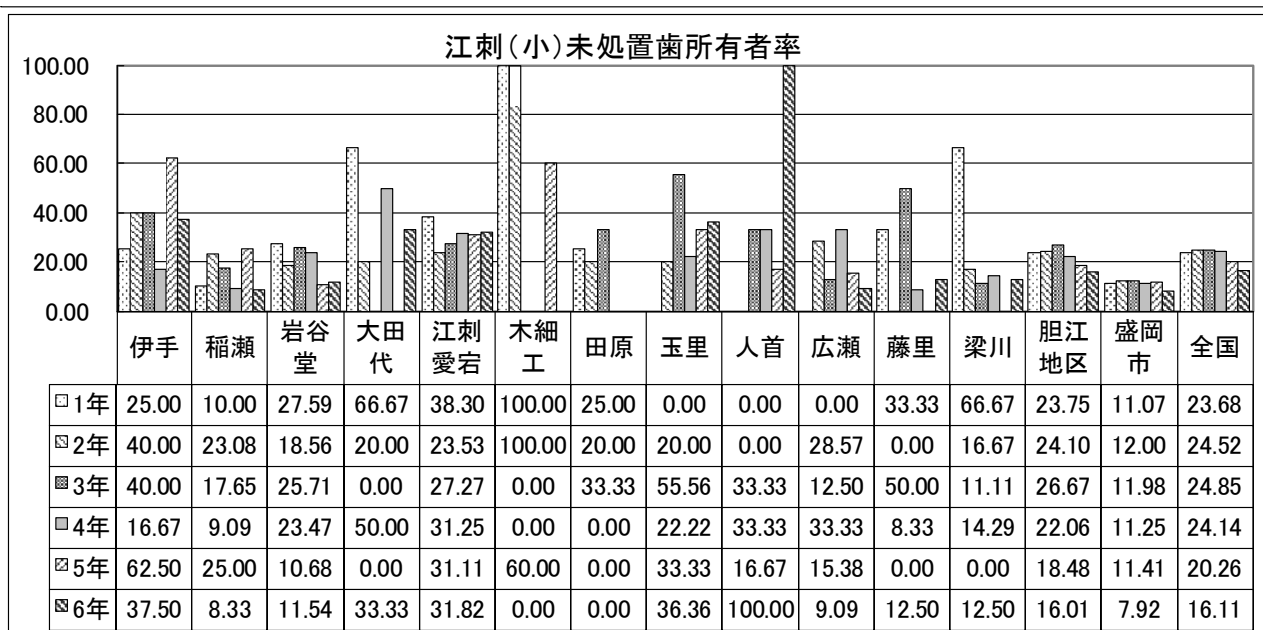
水沢(小)う歯有病者率



水沢(小)DMFT

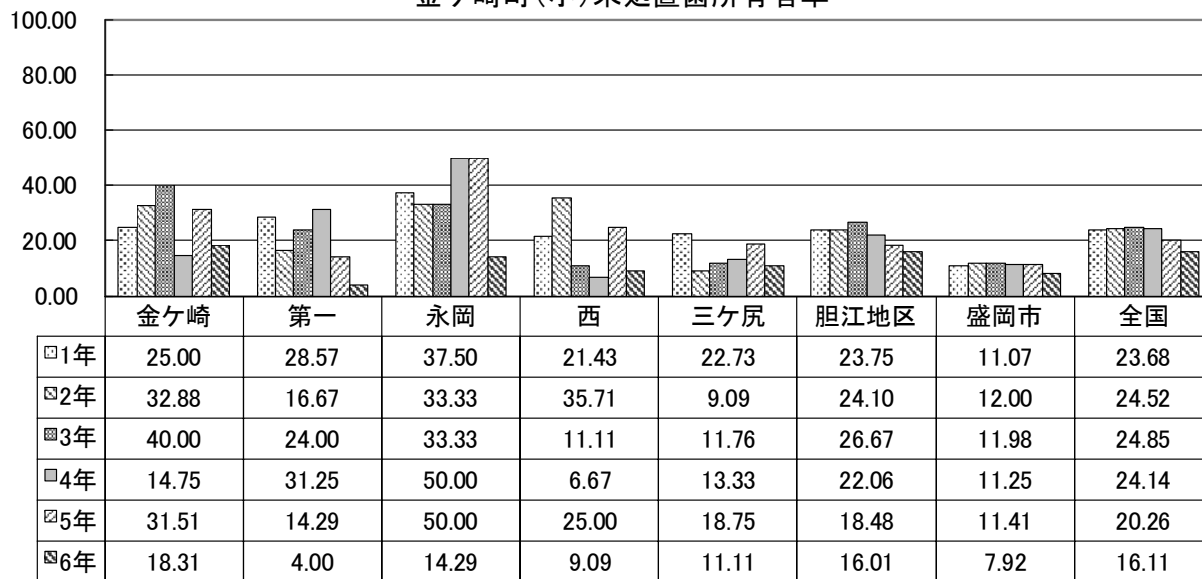


学校別(小)

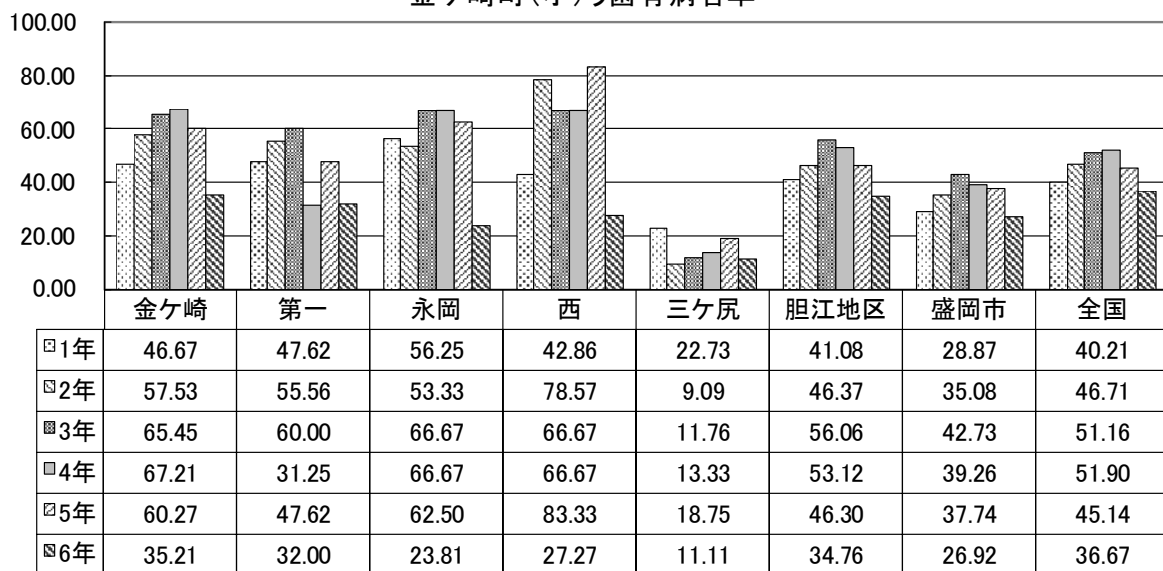


学校別(小)

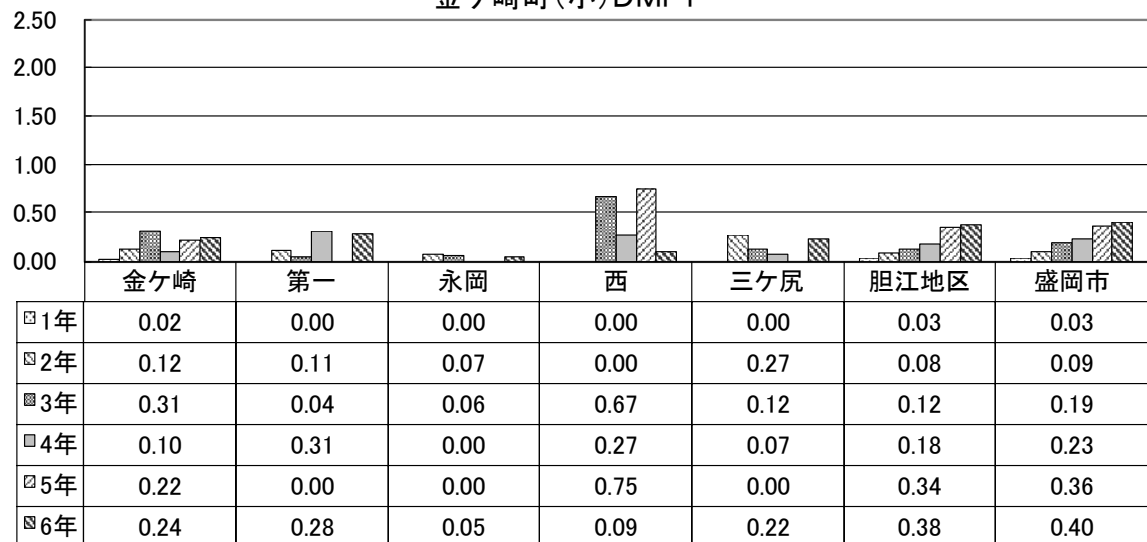
金ヶ崎町(小)未処置歯所有者率



金ヶ崎町(小)う歯有病者率



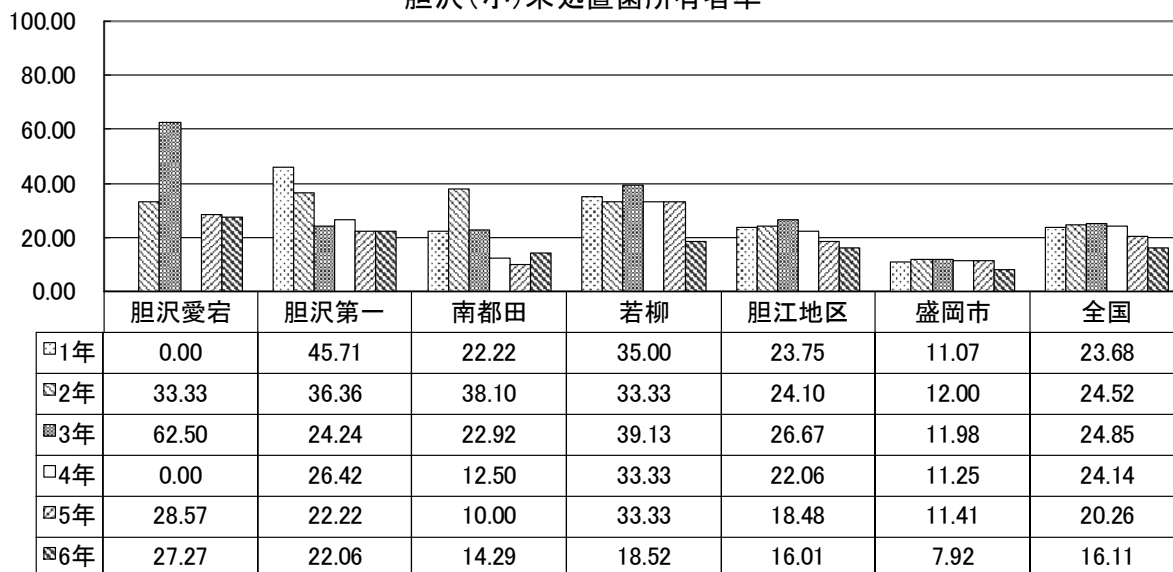
金ヶ崎町(小)DMFT



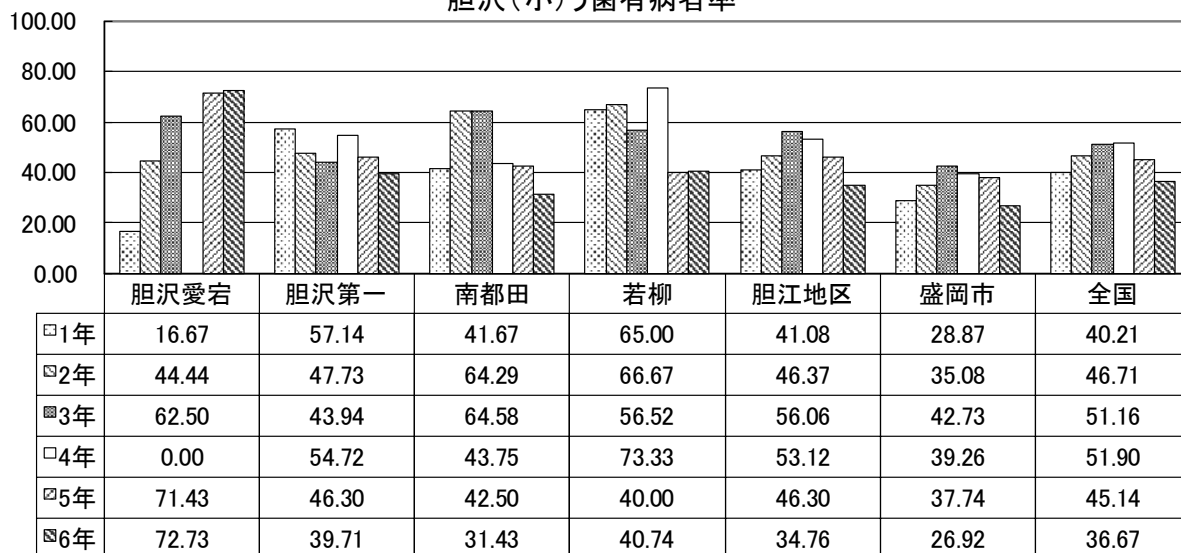


学校別(小)

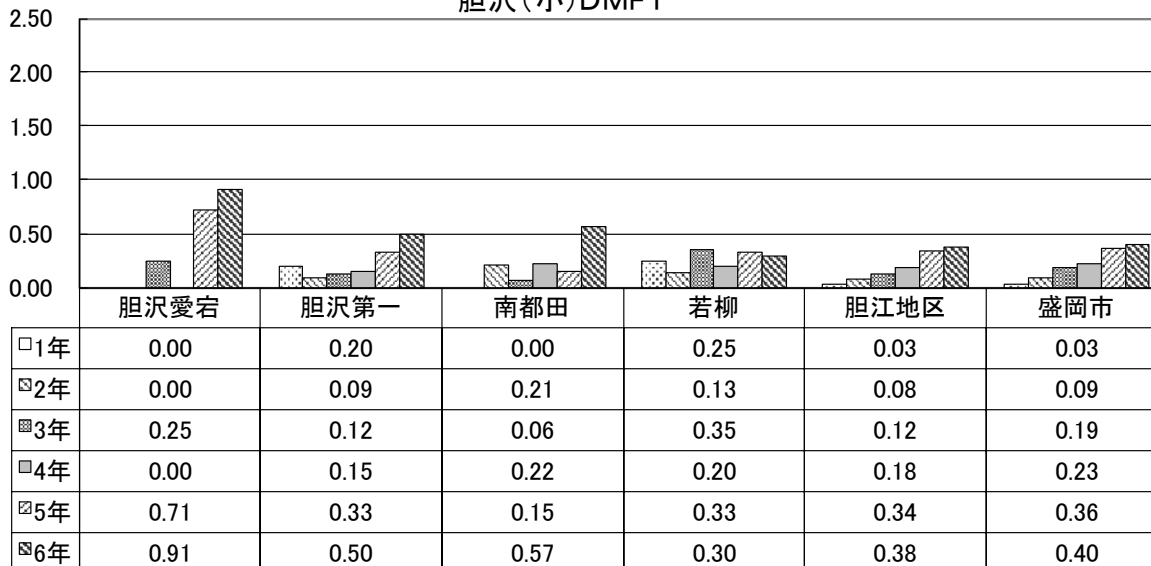
胆沢(小)未処置歯所有者率



胆沢(小)う歯有病者率

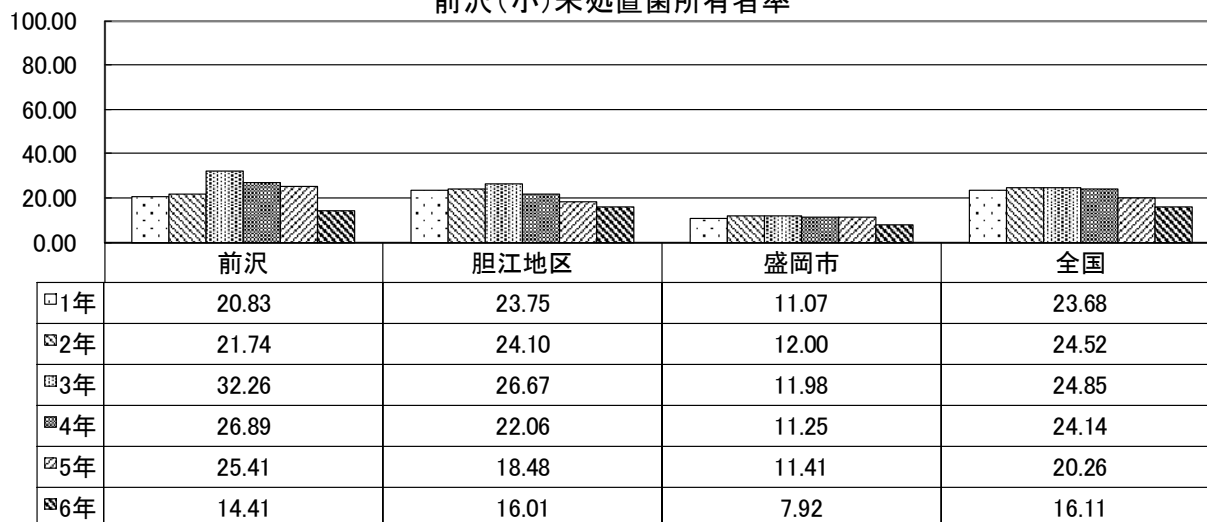


胆沢(小)DMFT

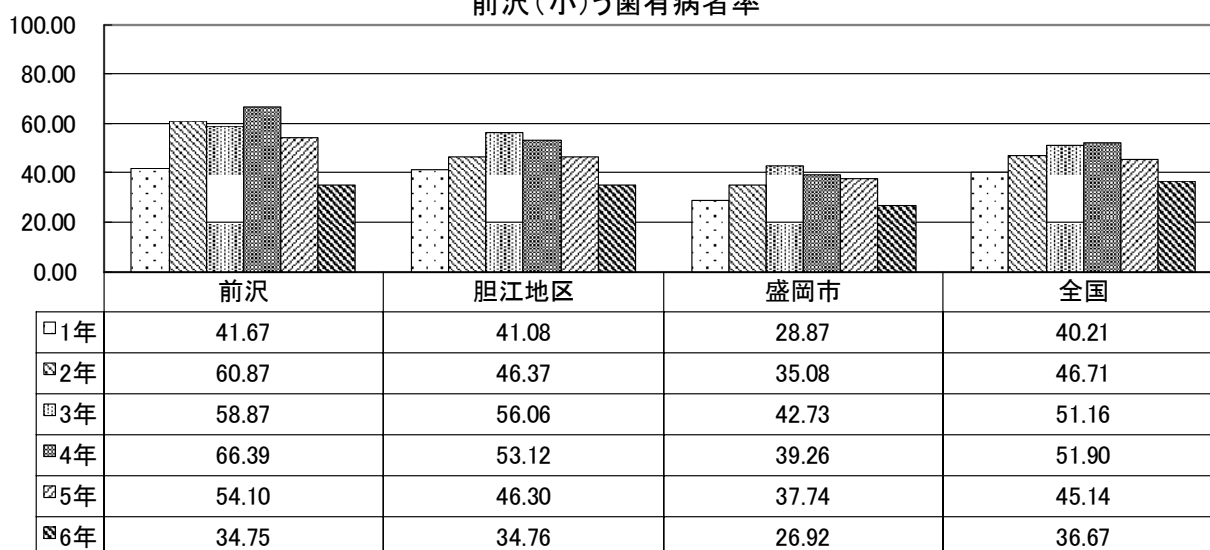


学校別(小)

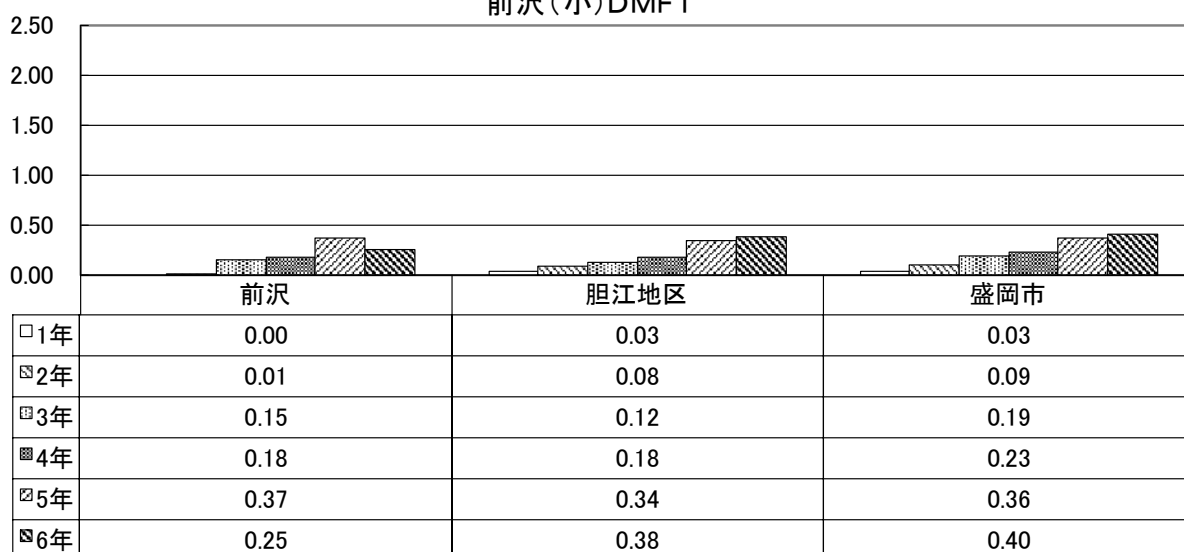
前沢(小)未処置歯所有者率



前沢(小)う歯有病者率

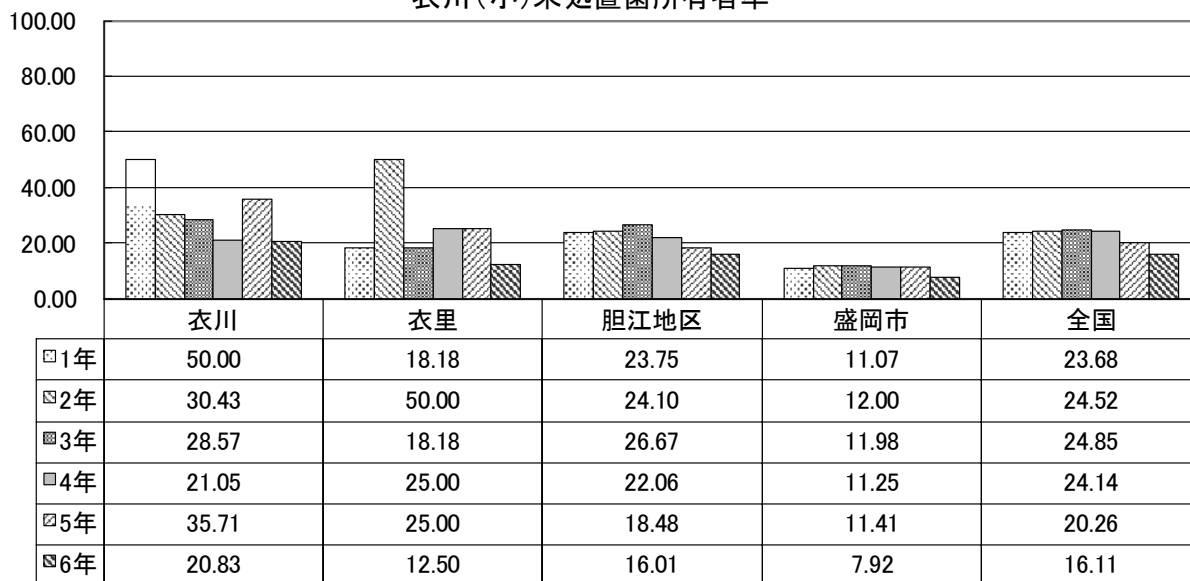


前沢(小)DMFT

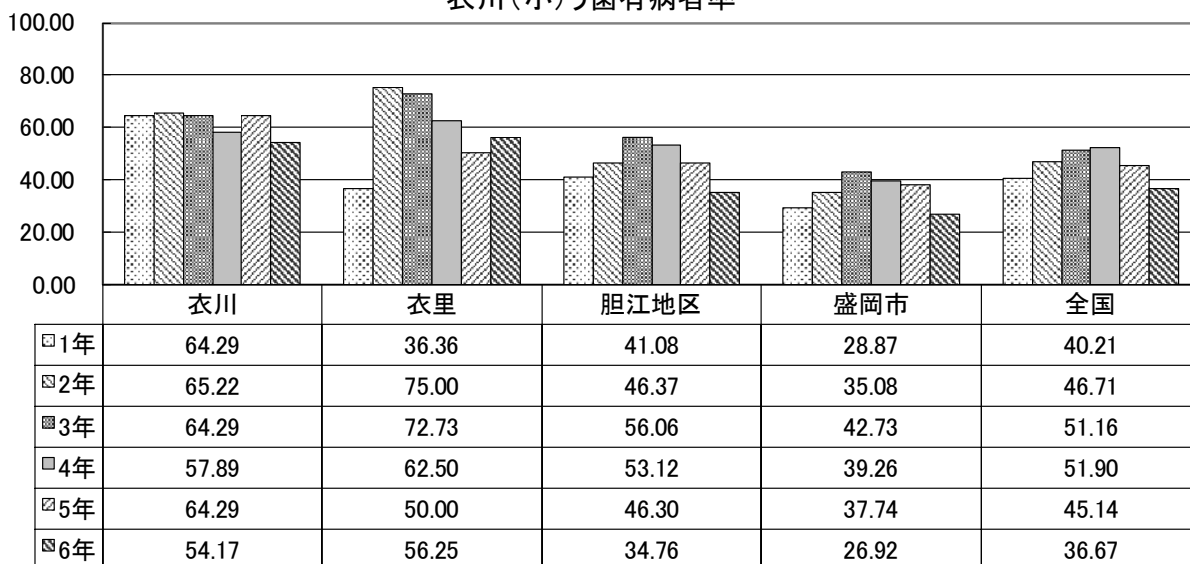


学校別(小)

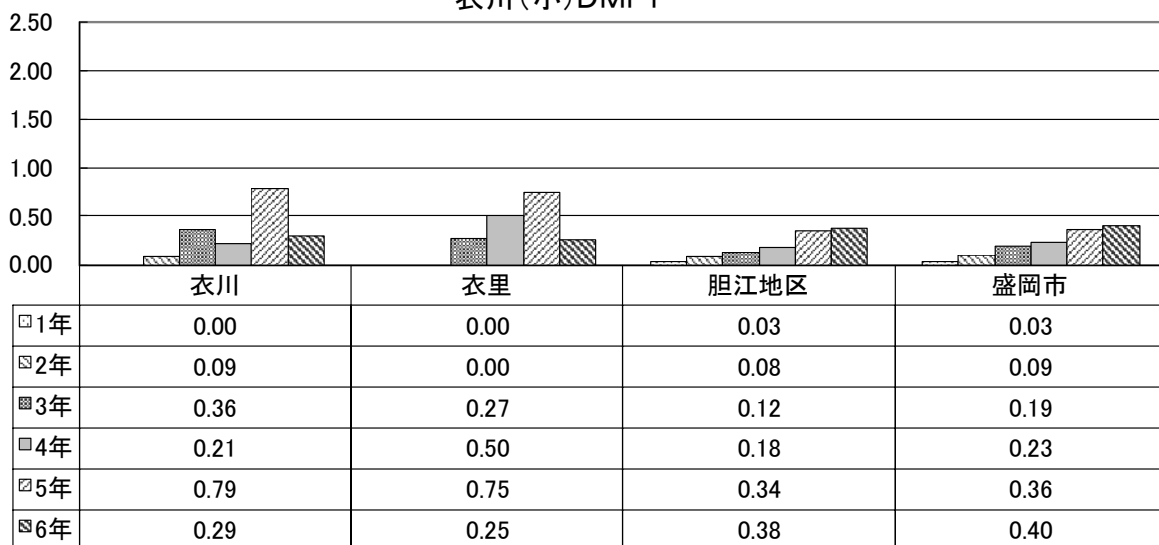
衣川(小)未処置歯所有者率



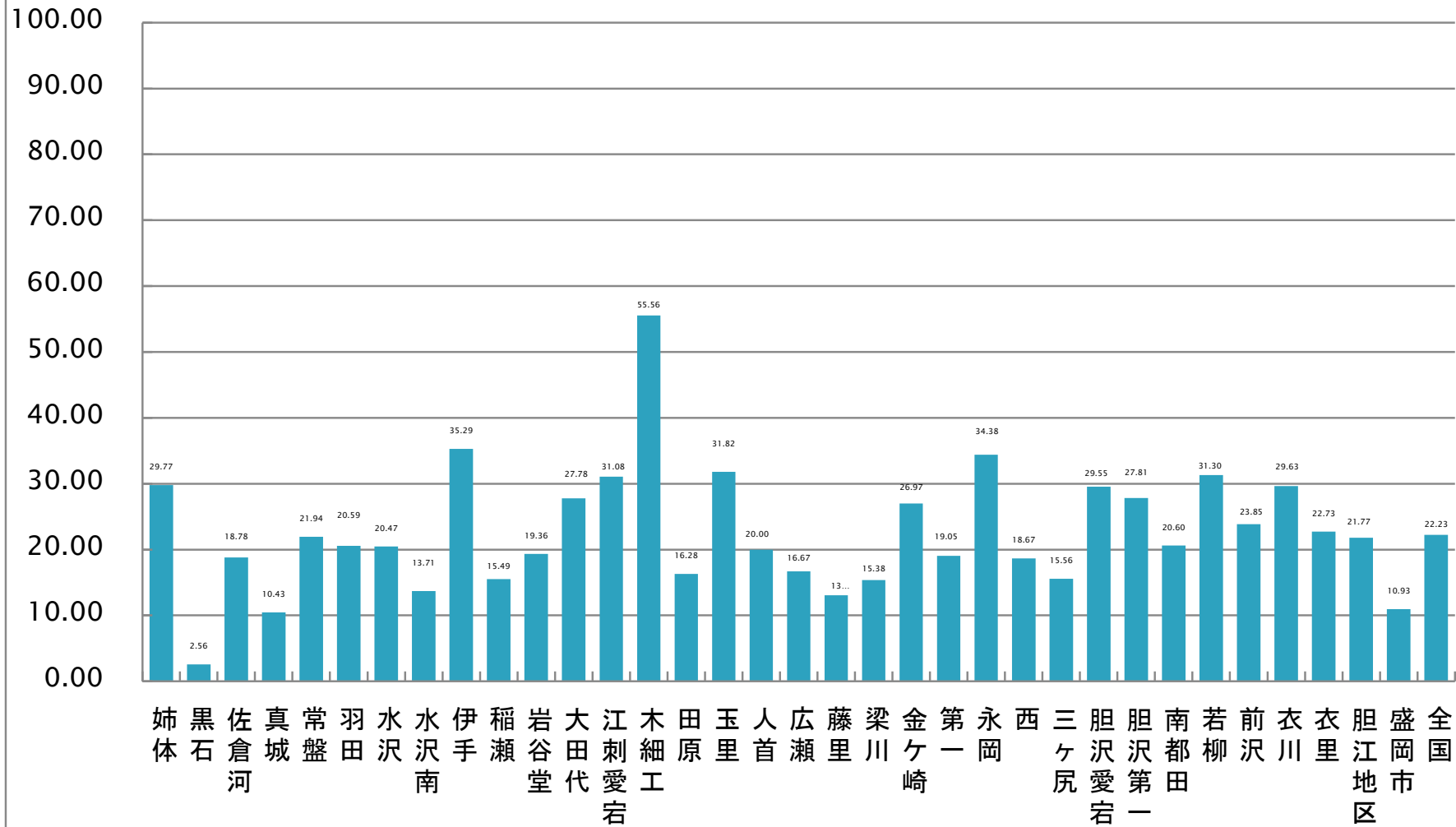
衣川(小)う歯有病者率



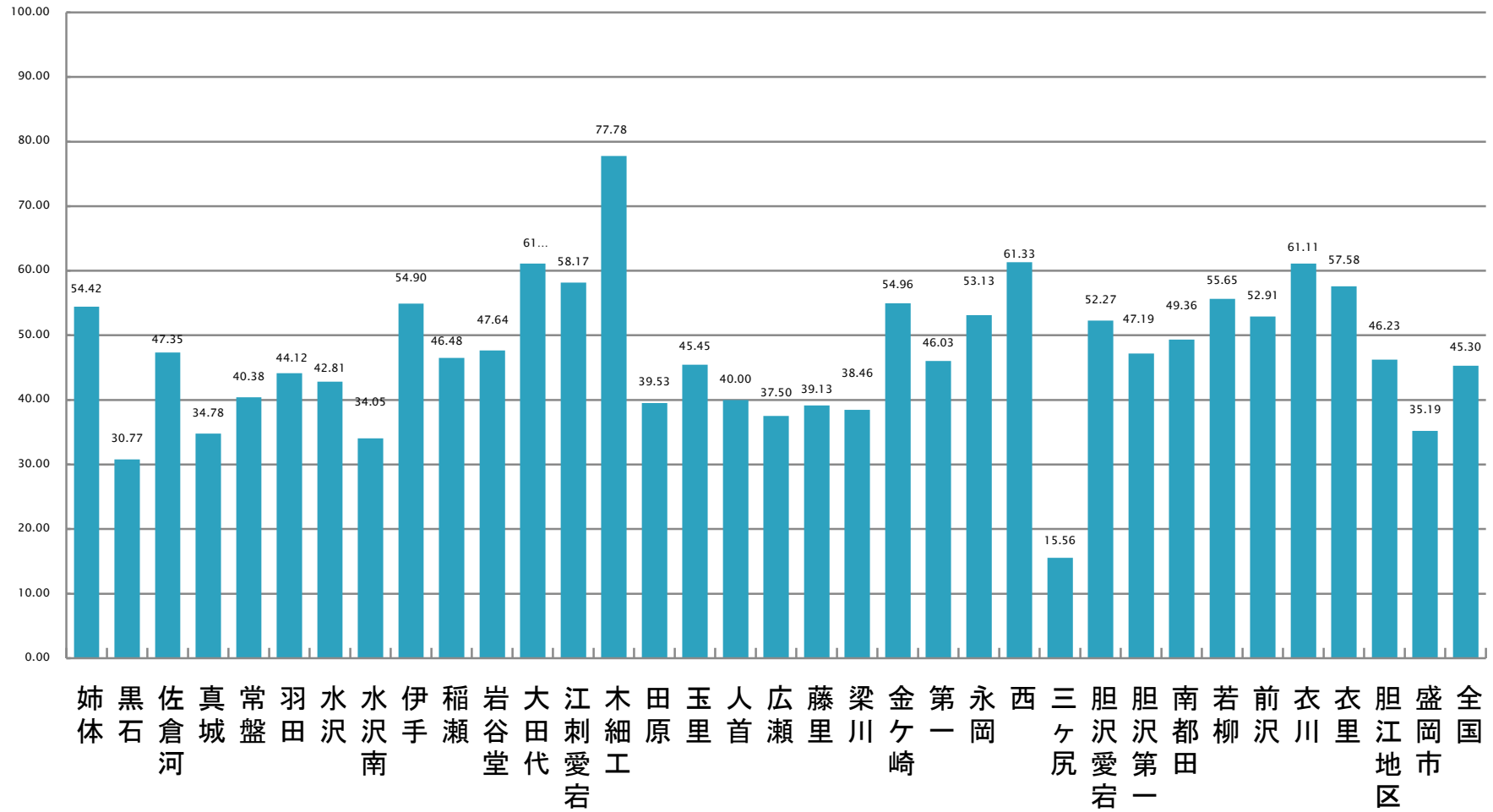
衣川(小)DMFT



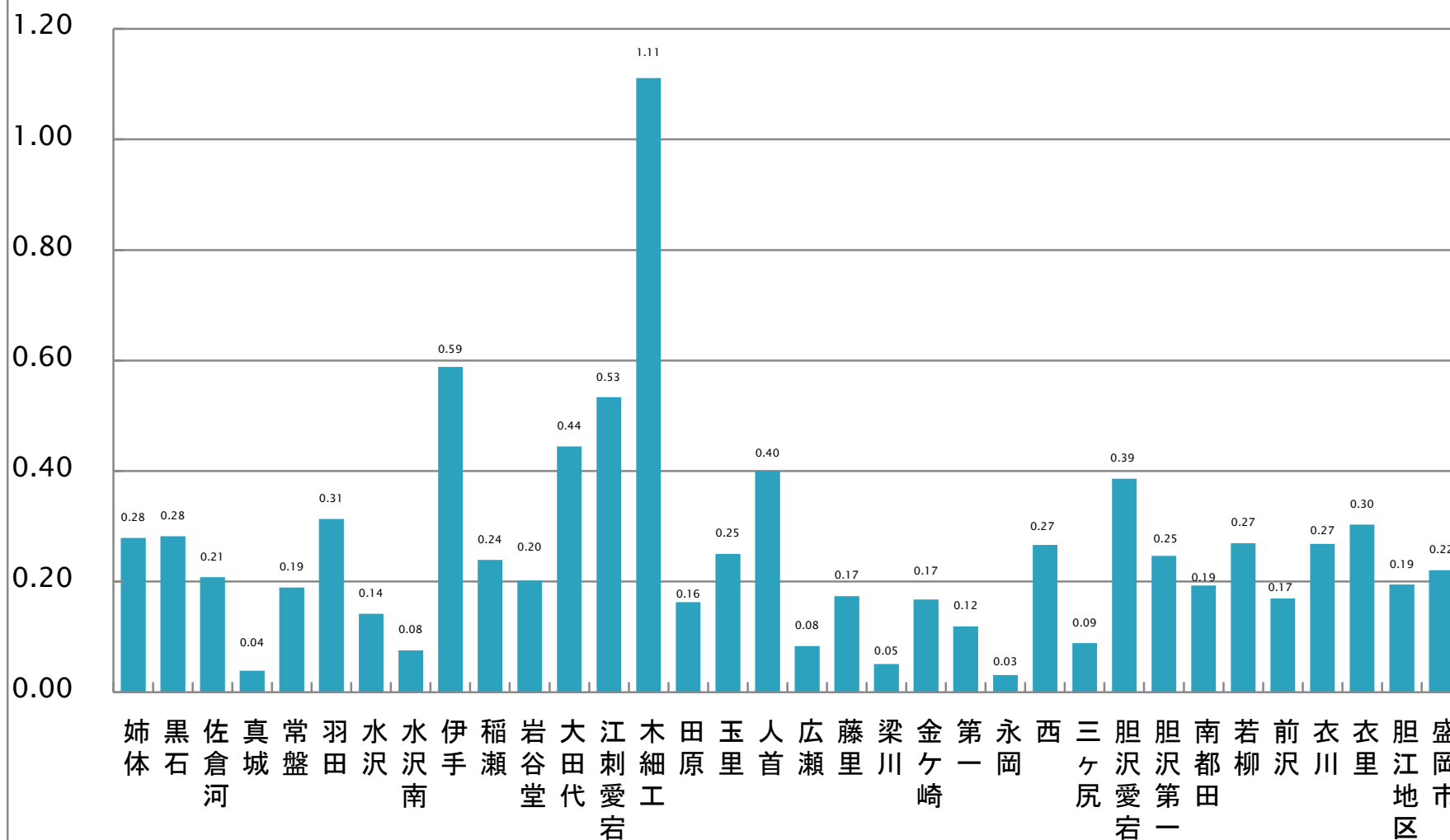
# 学校別(小)未処置歯所有者率



# 学校別(小)有病者率

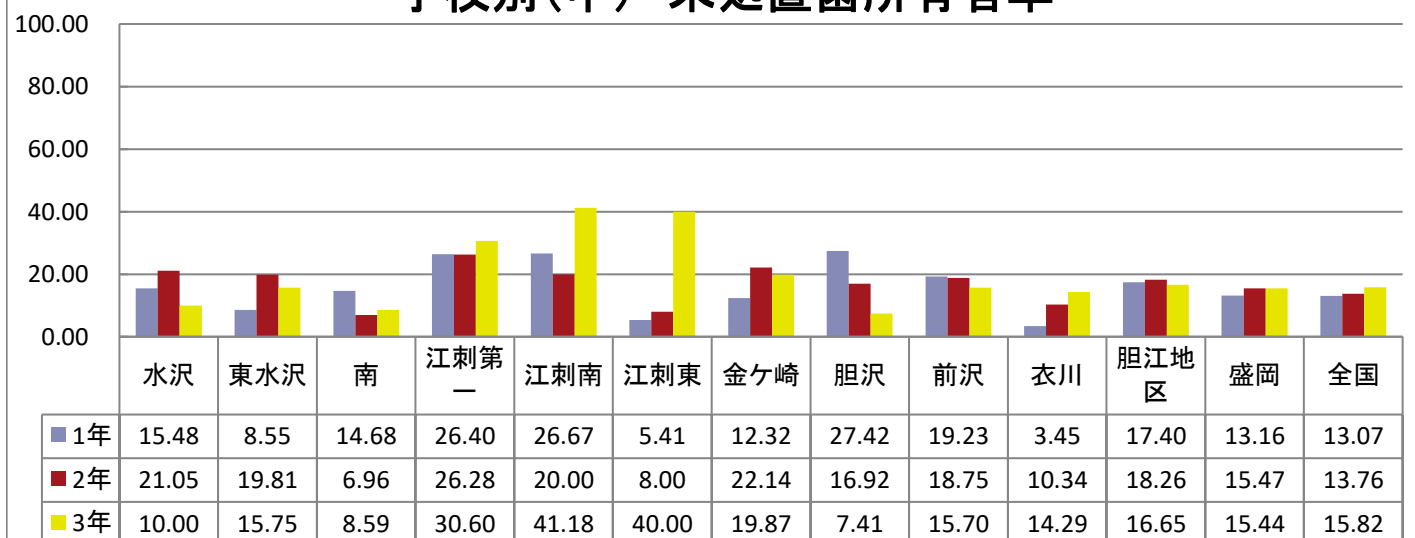


# 学校別(小)DMF

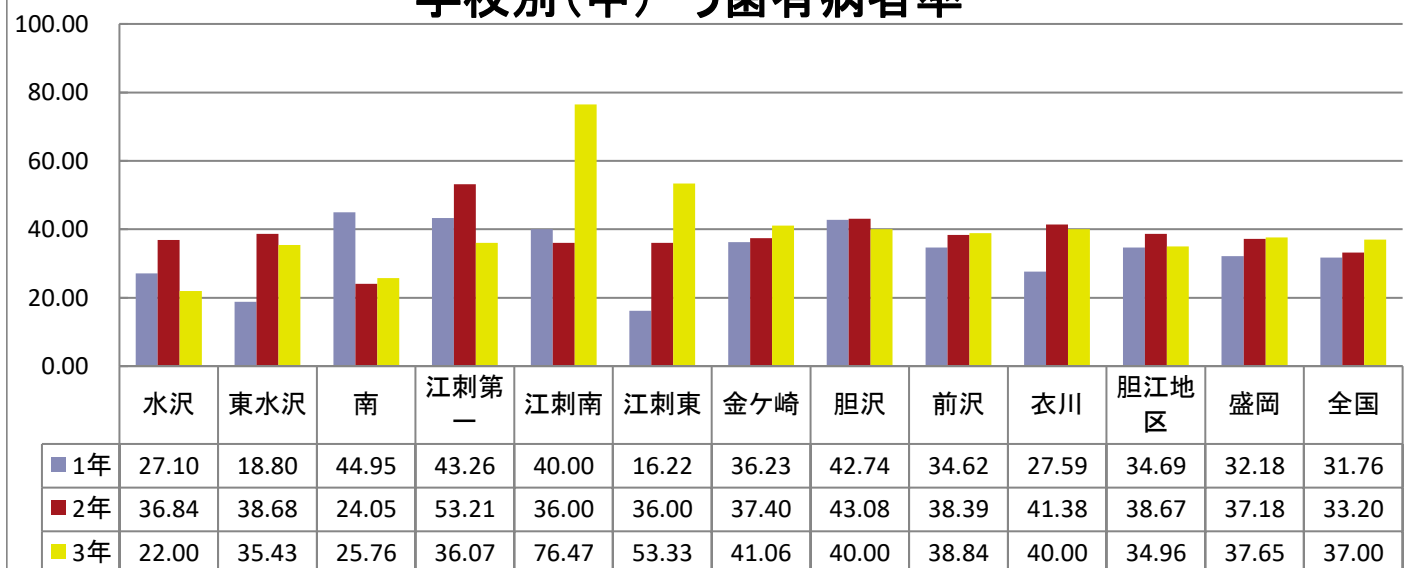


学校別(中)

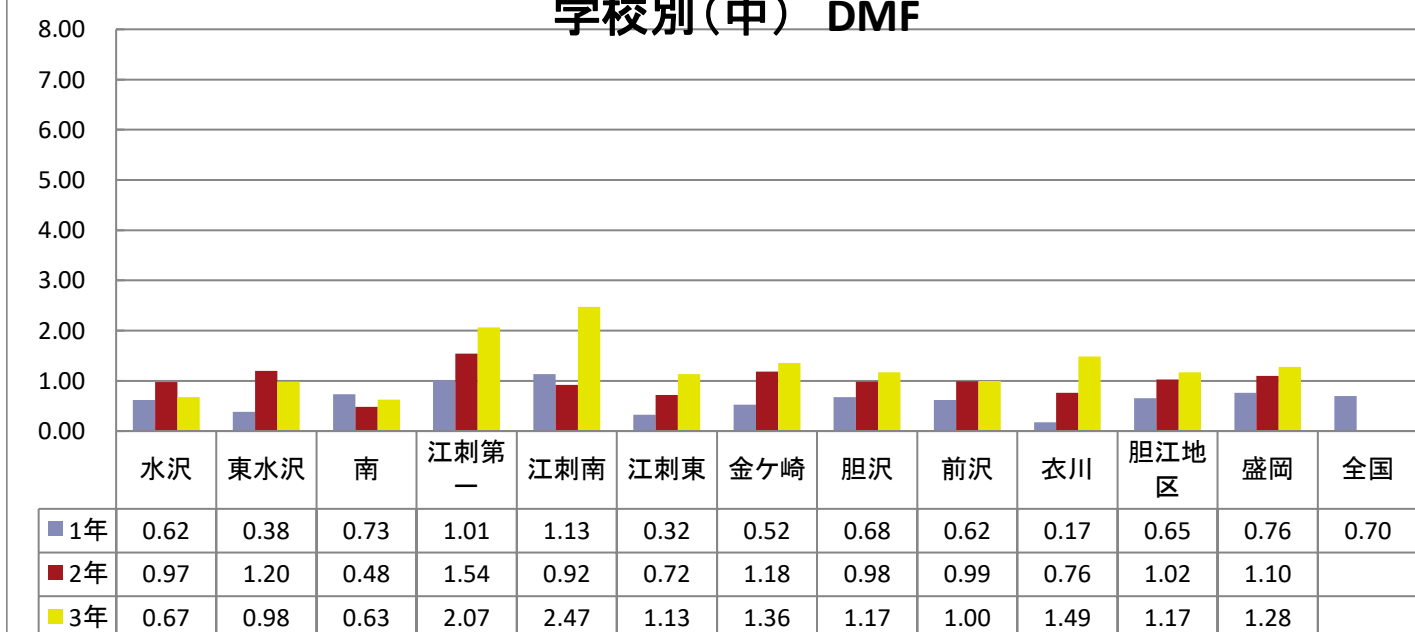
学校別(中) 未処置歯所有者率



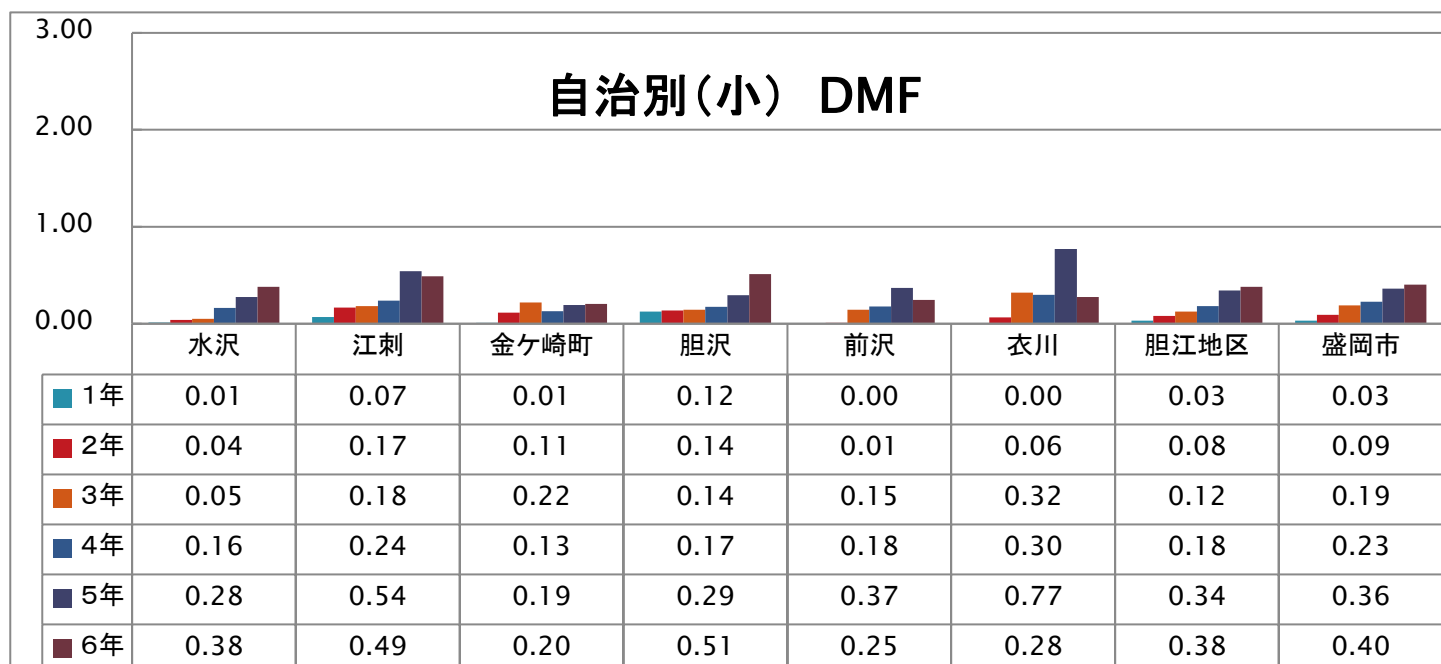
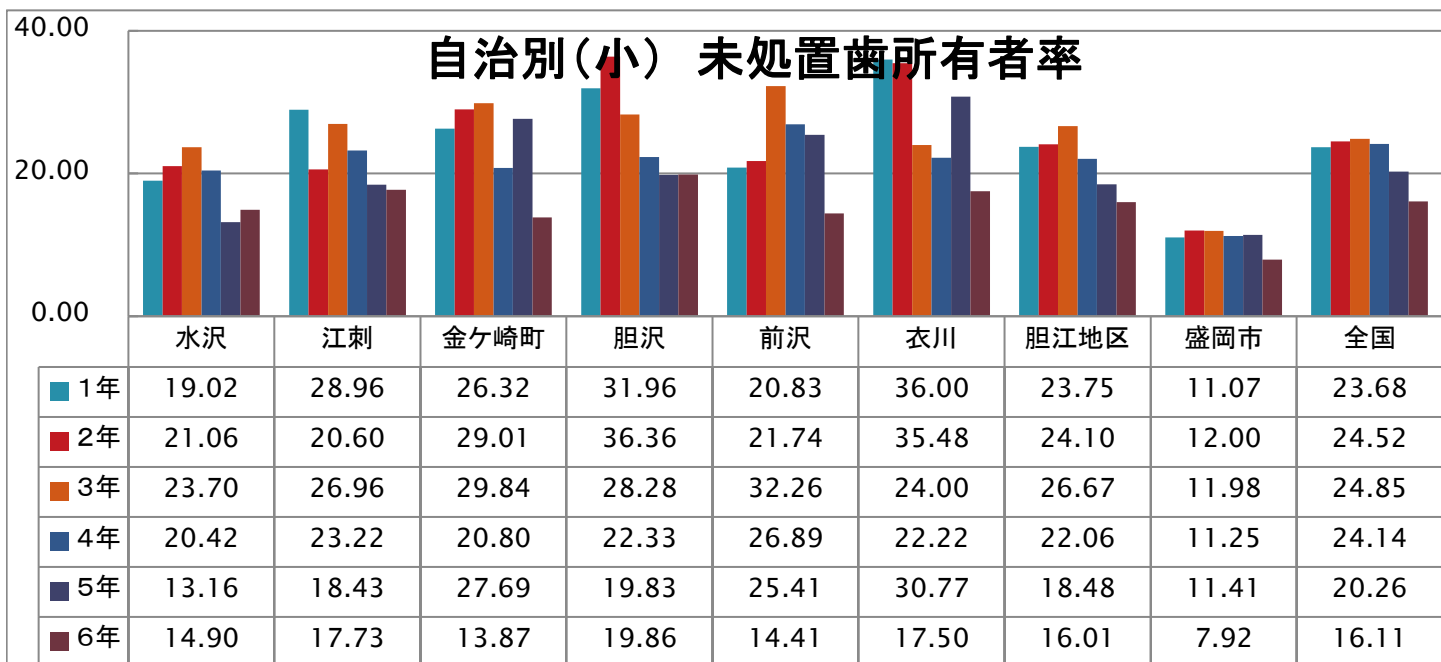
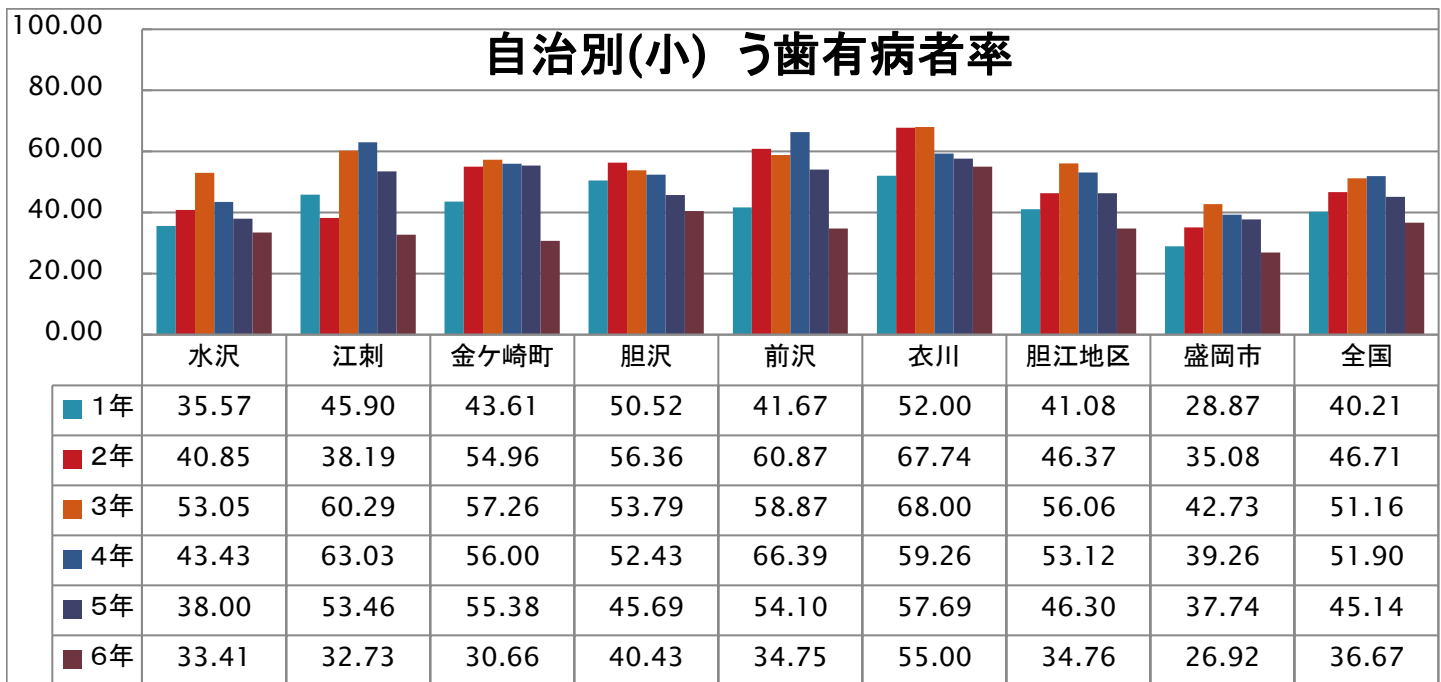
学校別(中) う歯有病者率



学校別(中) DMF

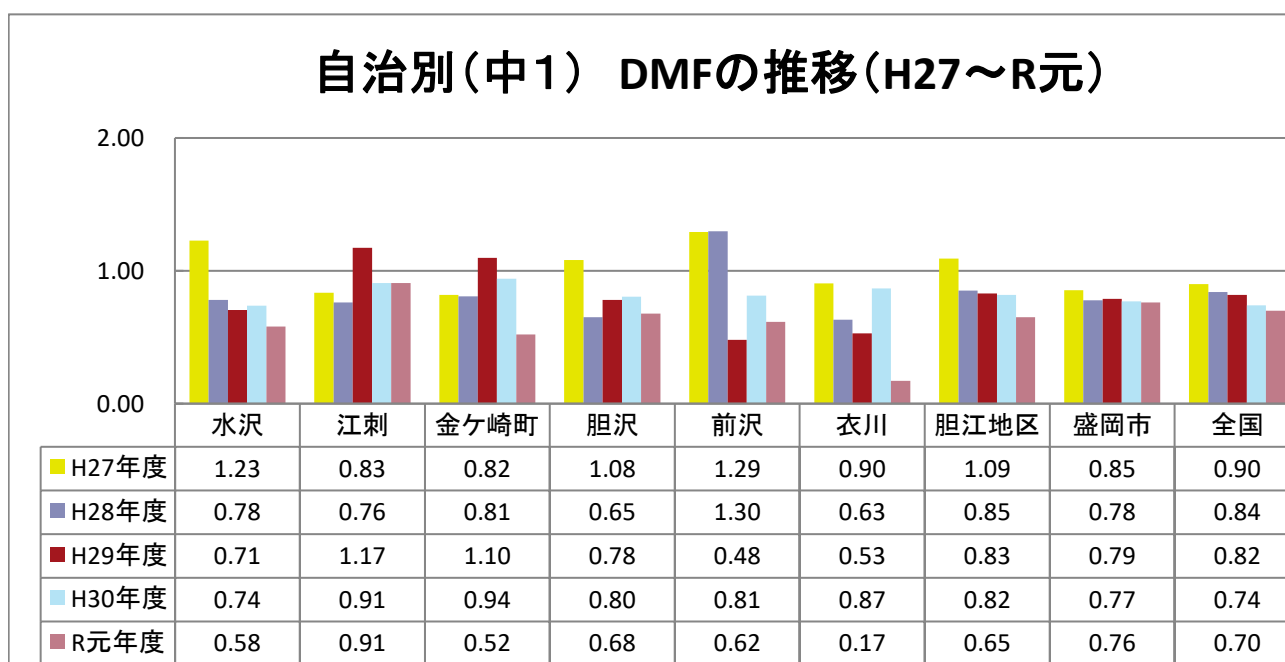
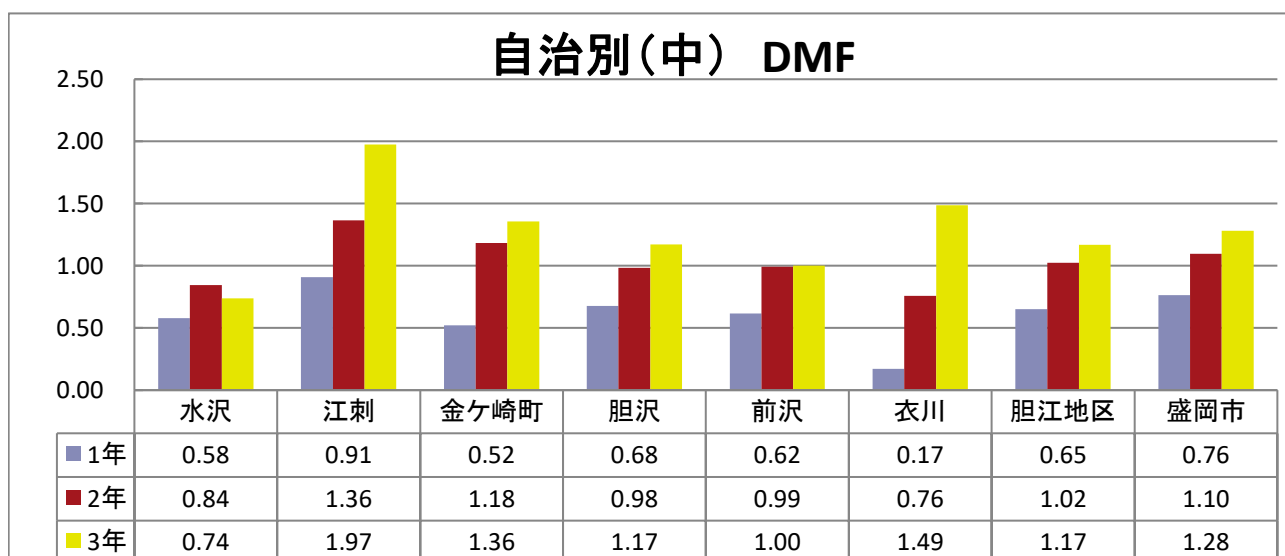
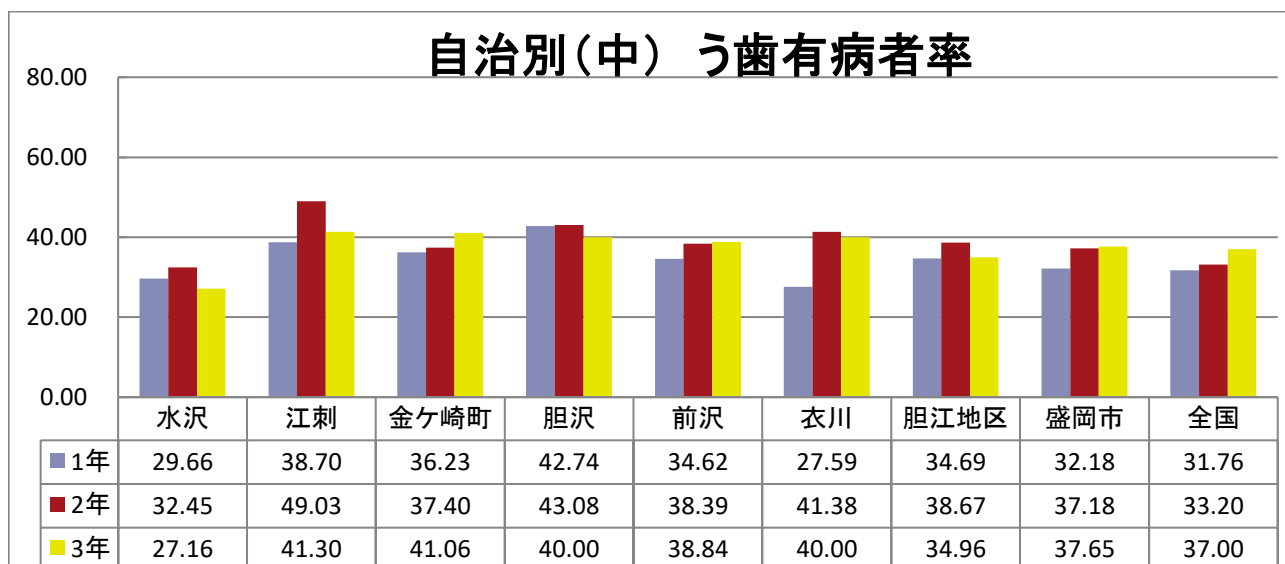


自治区別(小)

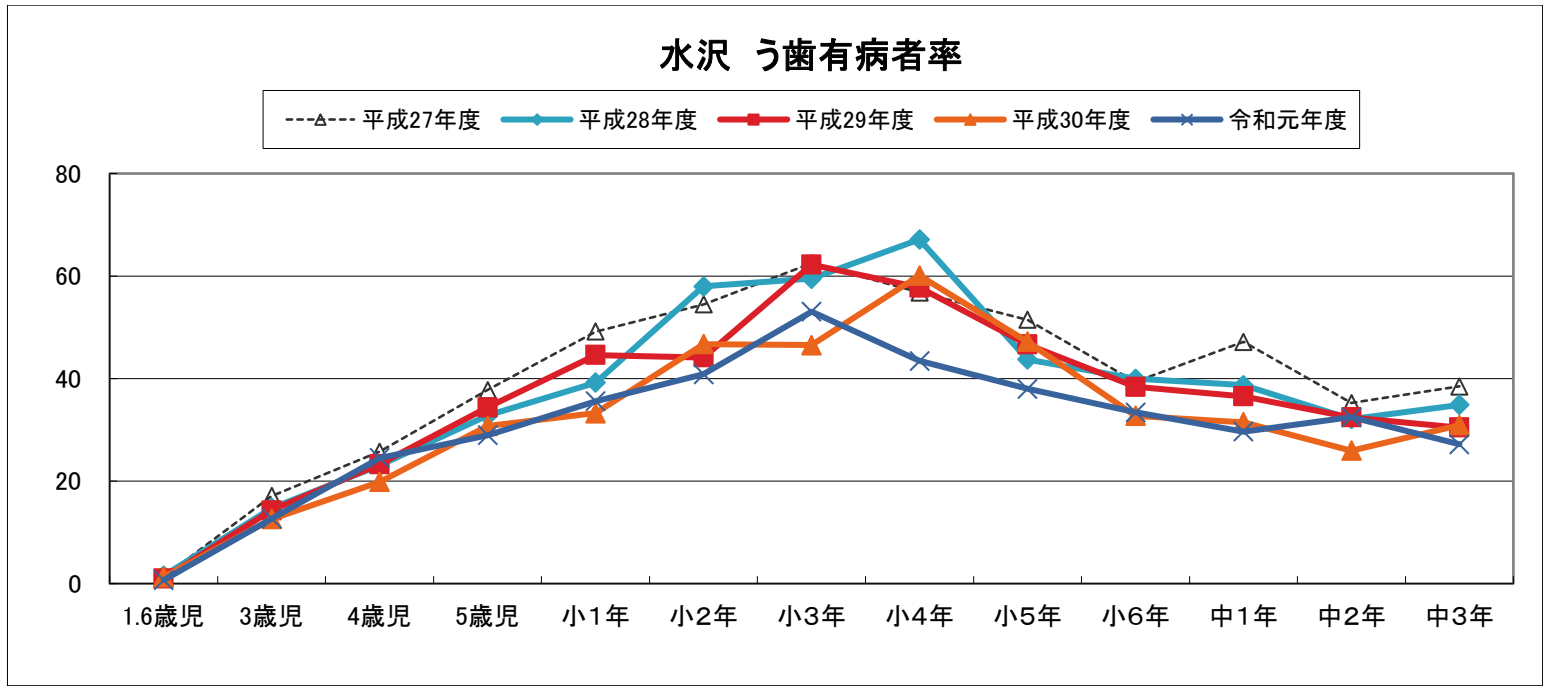




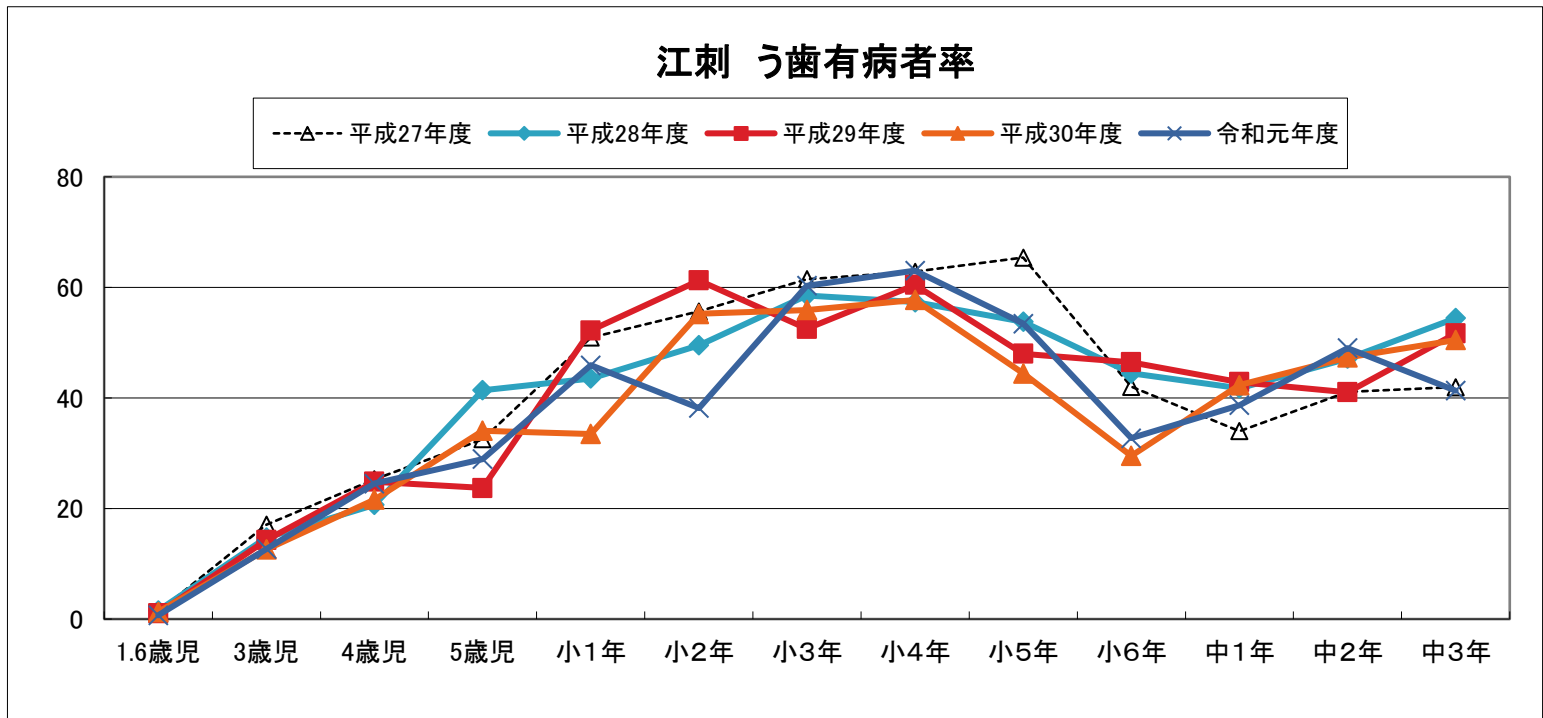
自治区別(中)



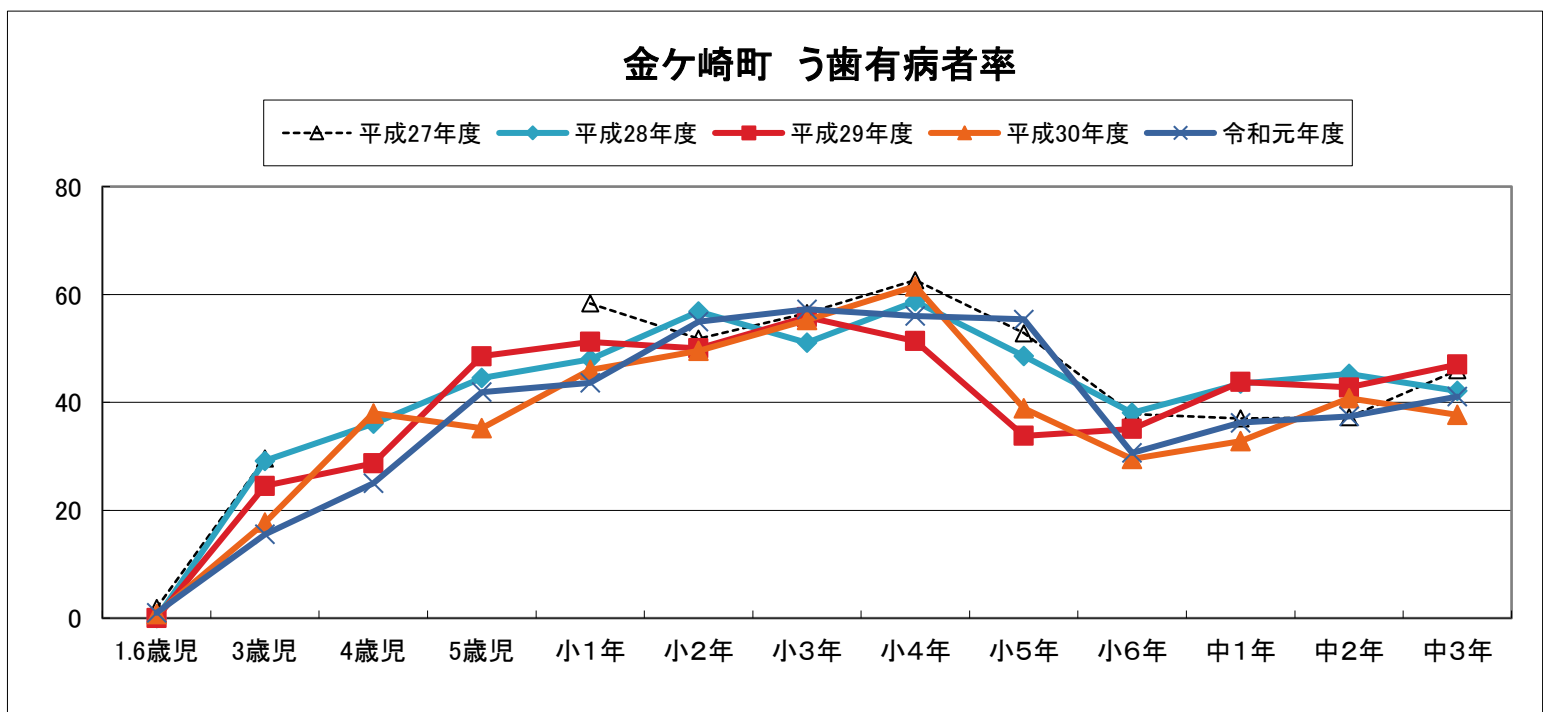
1.6歳児～中学3年までのう歯有病者率



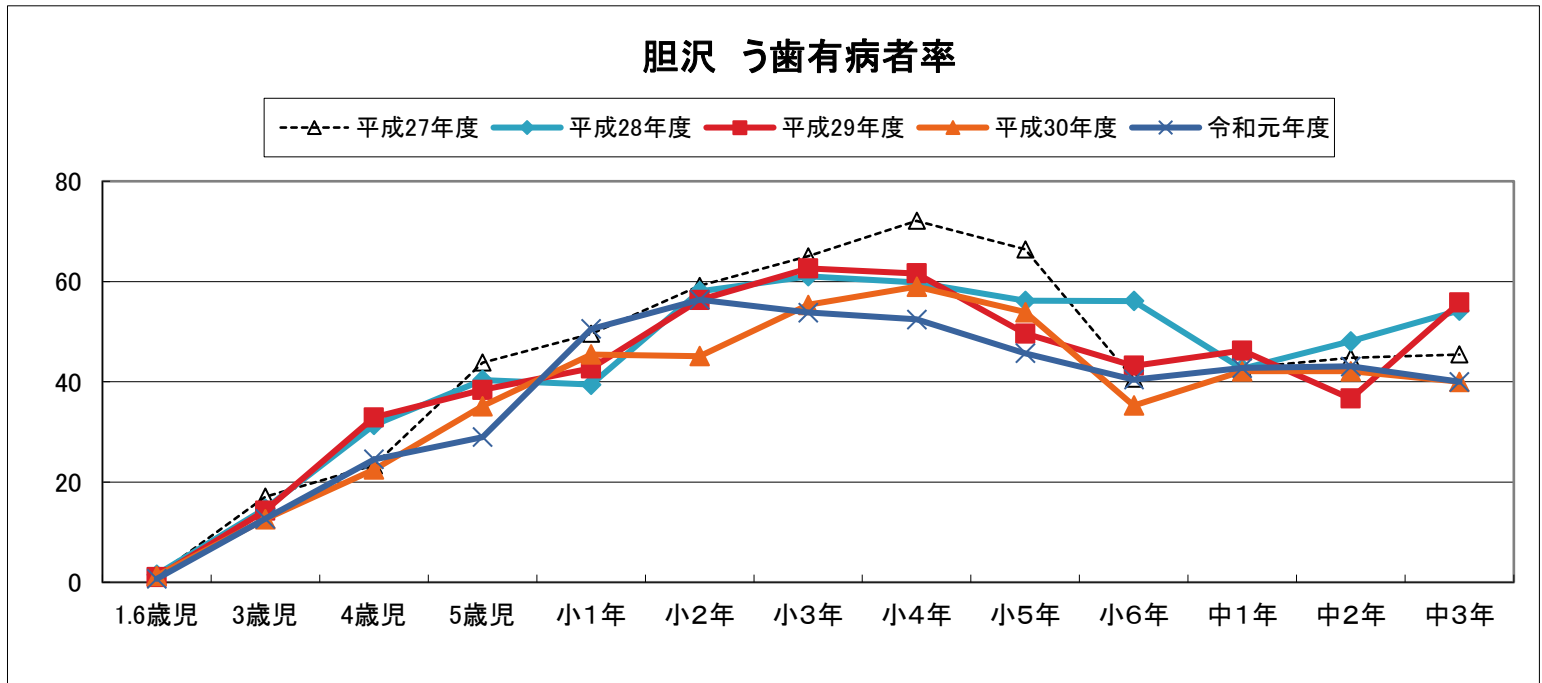
注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ



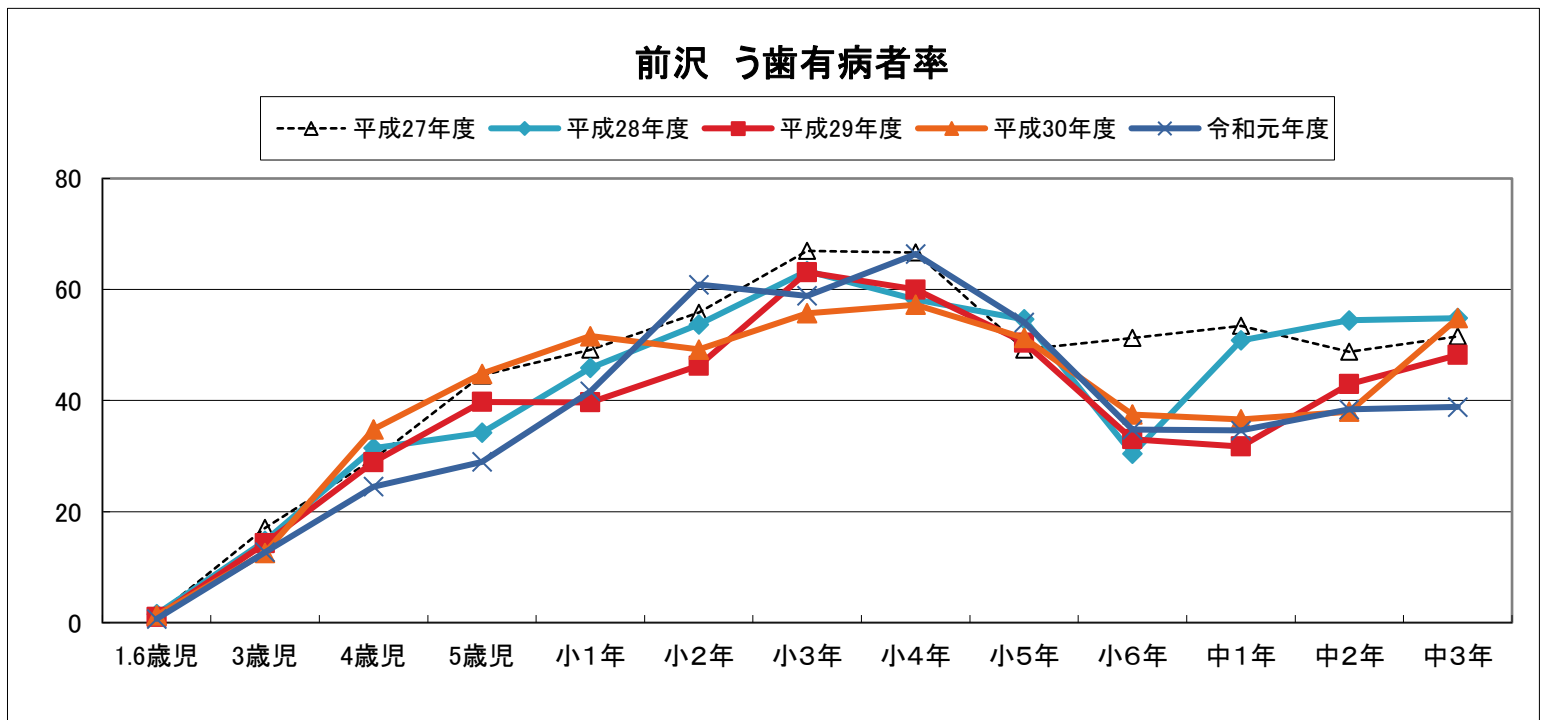
注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ



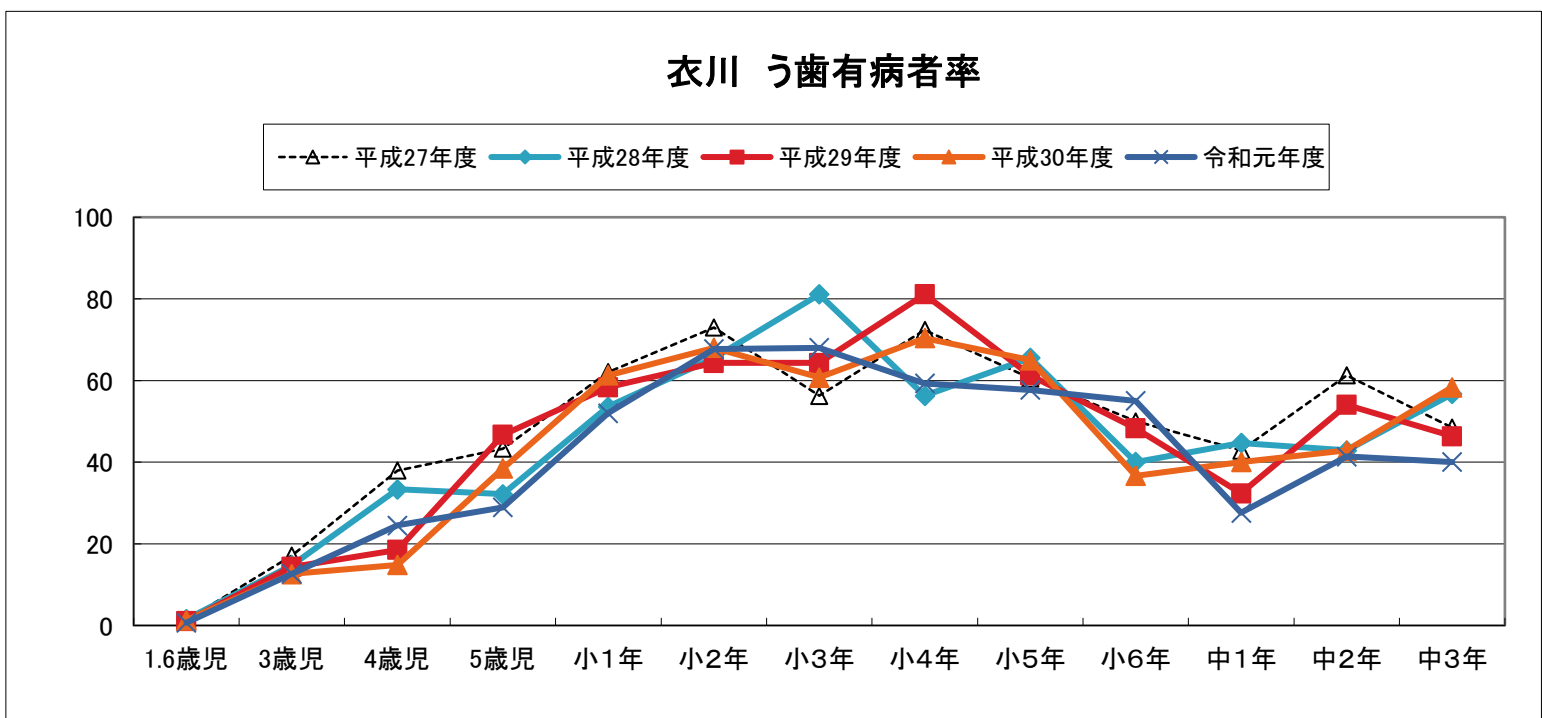
1.6歳児～中学3年までのう歯有病者率



注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ

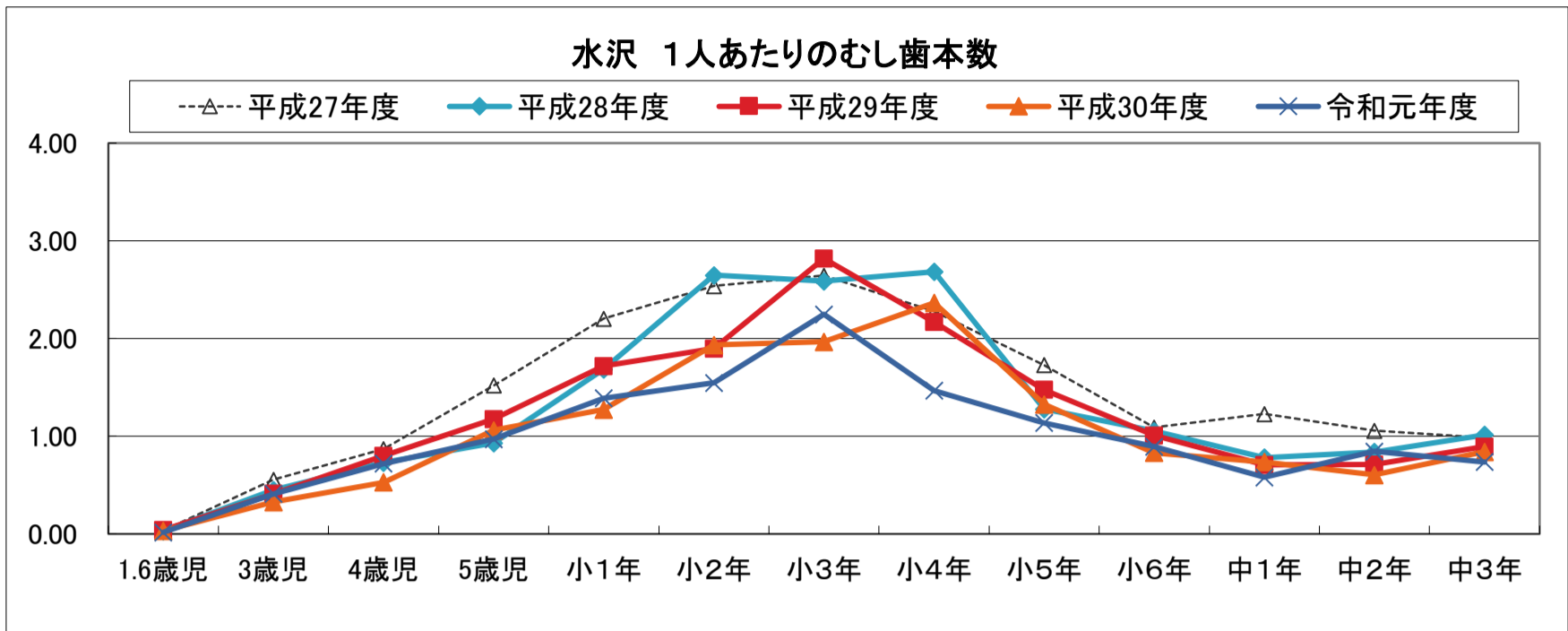


注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ

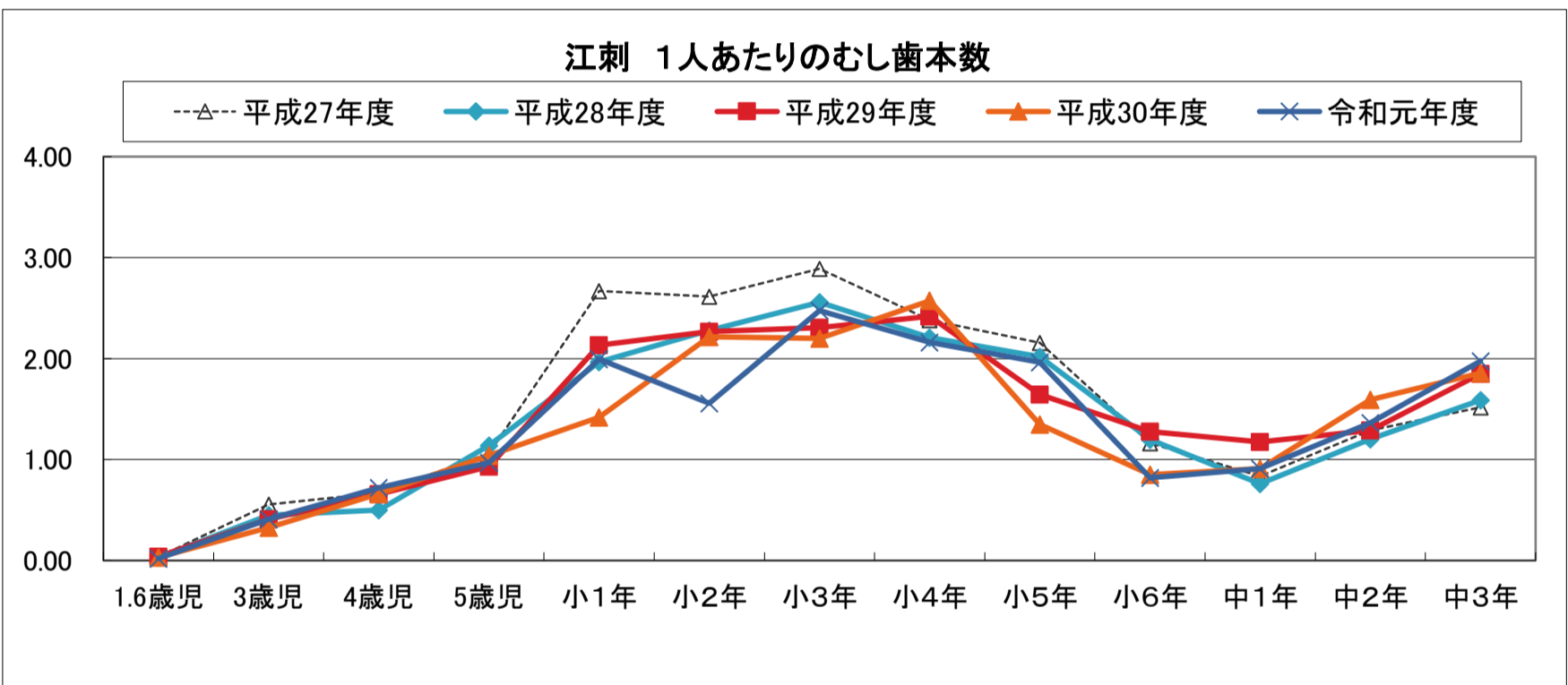


注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ

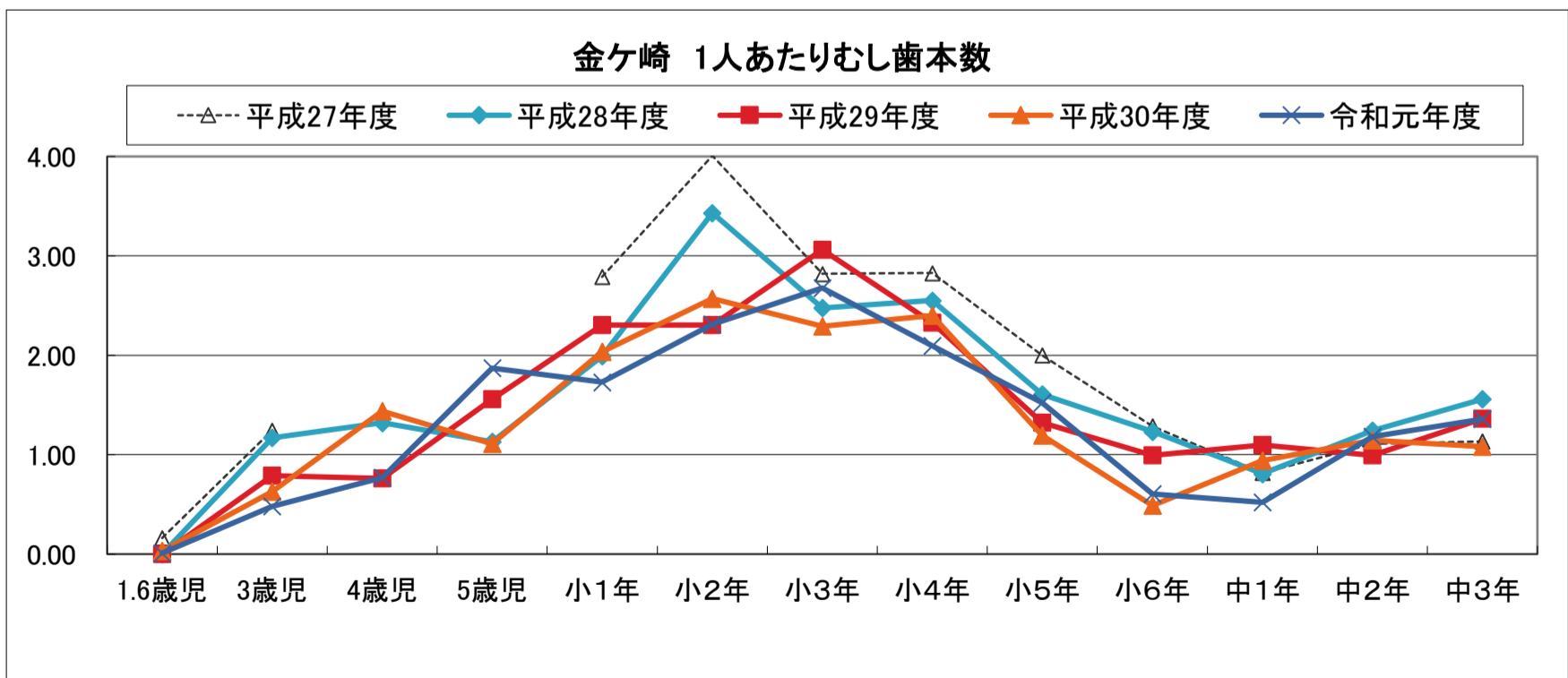
1.6歳児～中学3年までのむし歯本数



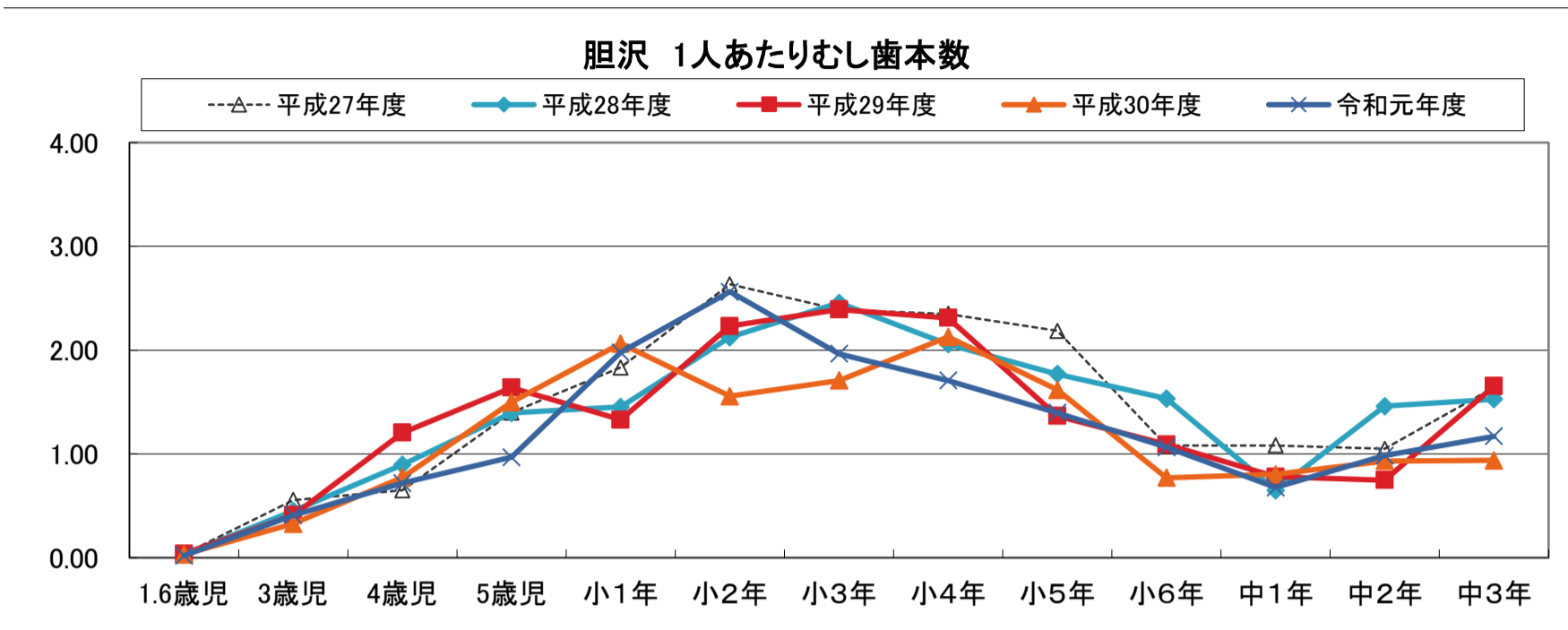
注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ



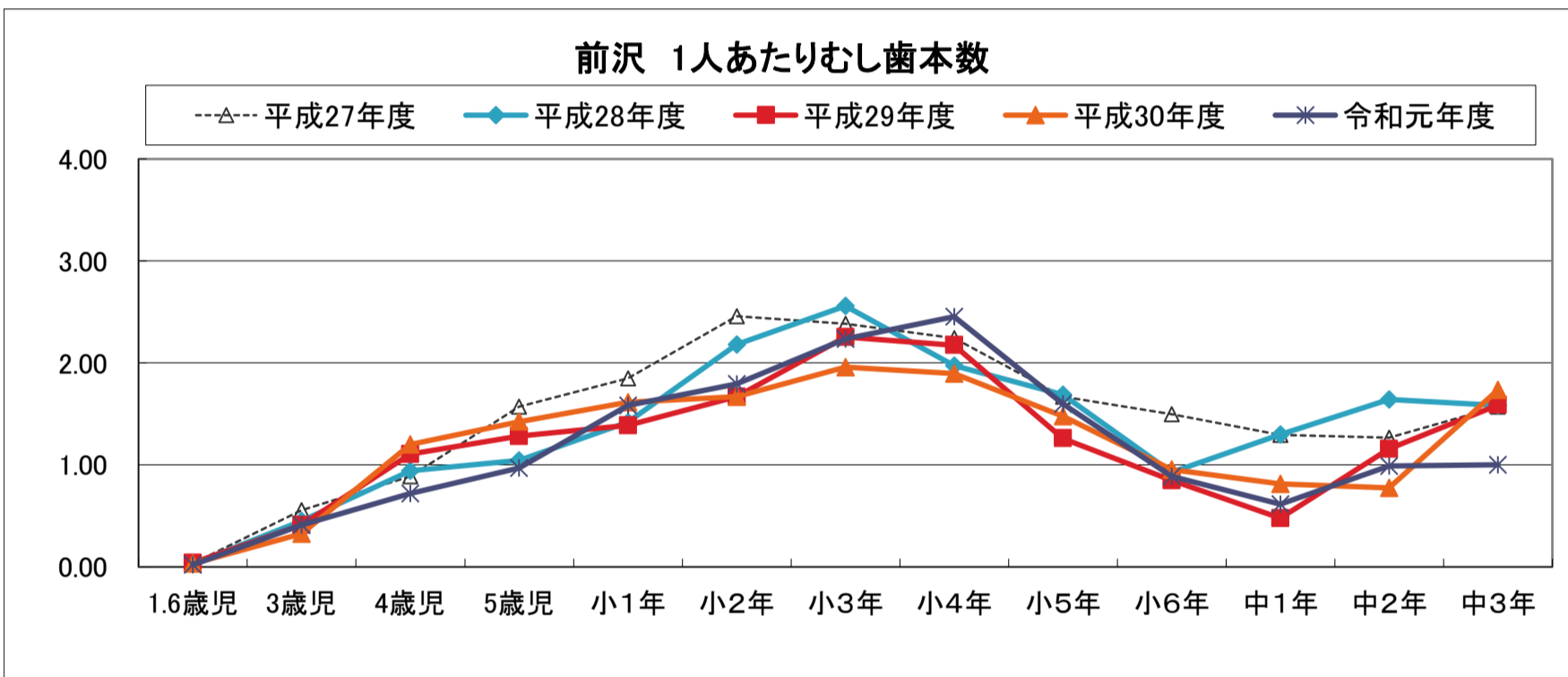
30 注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ



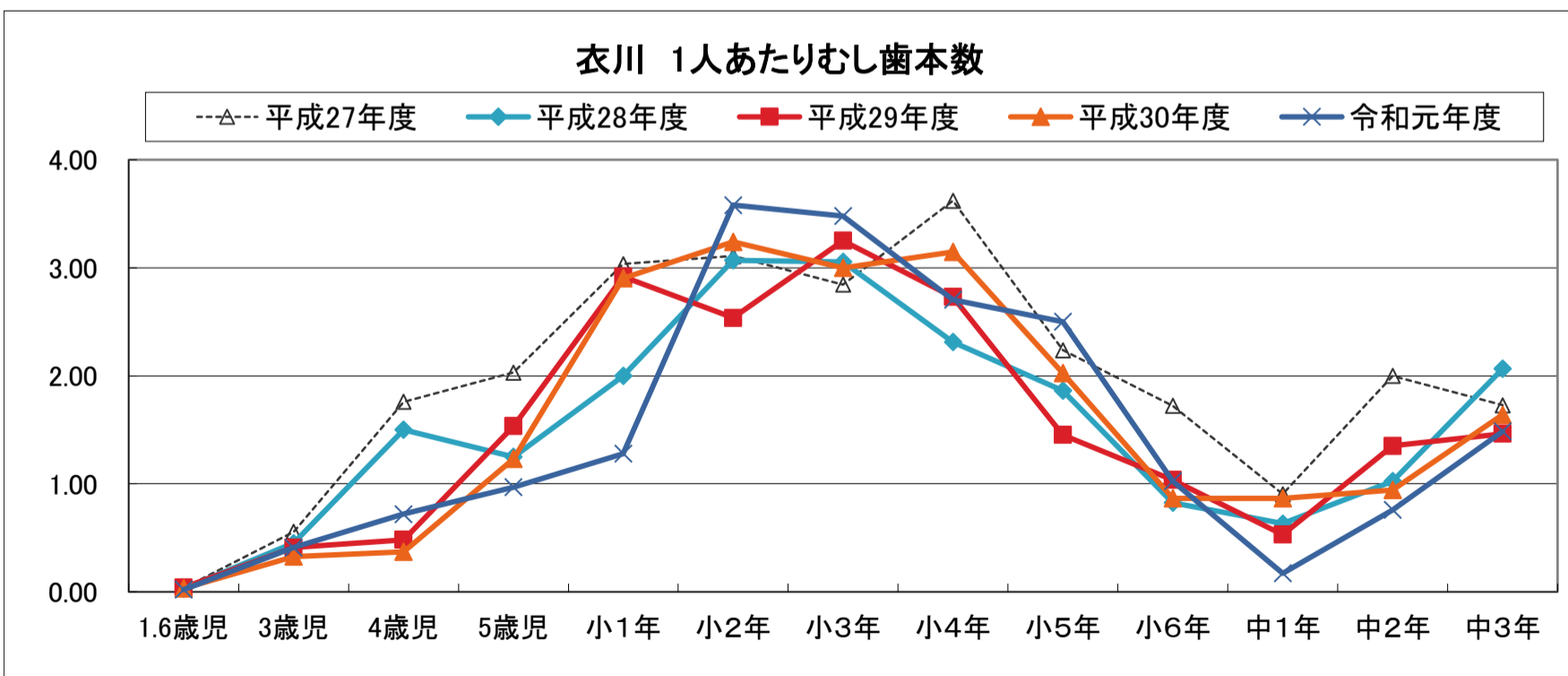
1.6歳児～中学3年までのむし歯本数



注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ



注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ



注) 1.6歳、3歳は奥州市のデータ

## 編集後記

令和2年度はコロナという未曾有のウイルスに世界が震撼させられた一年であったと思います。我々医療関係者も例外ではなく職場や私生活での『新しい生活様式』を余儀なくされたと痛感しています。各検診事業においても、現場にかかわった各関係者様の細心の注意により滞りなく終了できたことに感謝申し上げます。また歯科保健データ集の作成にあたり収集にご協力いただきました方々に改めて感謝いたします。

巻頭の歯科保健目標と検診結果からの考察では、

- ・ う蝕有病者率は1.6歳児・3歳児(H34の目標値に到達)とも良好に推移。
- ・ 12歳児の永久歯のむし歯有病者率の減少(H34までに28%へ)への目標について、全国31.76%(昨年32.72%)、岩手県35.4%に対して当地区が34.69%と目標値には至りませんでした。一人平均むし歯の本数では平均より良好に経緯しましたが、昨年同様12歳児における目標到達が課題となりそうです。

『健康日本21』（厚生労働省）の提言では、学童期のう蝕予防として

1. フッ化物配合歯磨剤の励行（20～40%のう蝕抑制率、フッ化物の歯科的応用に対する関係者の理解を深めることの重要性）
2. 口腔状況にあった歯口清掃法の習得（交換期による口腔内変化に対して、適正な歯口清掃法の習得）
3. その他（歯科医師による定期的管理による予防処置、健康教育としてのう蝕の発生と予防に関する理解、適切な健康習慣の定着）を挙げています。

学童期に限った話ではないと思いますが、各年代に共通すべき内容でもあると思います。現場を担当される方の参考になれば幸いです。

令和3年1月

編集・発行

（一社）奥州歯科医師会 公衆衛生委員会

高橋 元、岩淵 直泰、吉田智哉、吉田 克則

佐々木 秀、桜庭 寿、八重樫浩二、千田太山、大石 裕